

令和5年度

全国簿記教育研究協議会



主 催 公益財団法人全国商業高等学校協会

目 次

出題方針と答案審査基準について	1
全国からのご意見	
・ 総括	2
・ 第 3 級	4
・ 第 2 級	7
・ 第 1 級 会計	11
・ 第 1 級 原価計算	15
・ 将来の運営	22
第 97 回簿記実務検定試験 誤答調査一覧表	24
第 96 回・第 97 回簿記実務検定試験 第 1 級満点賞受賞者数一覧	28
第 96 回・第 97 回簿記実務検定試験 申込者数・受験者数・合格者数集計表 ..	29
令和 6 年度第 98 回・99 回簿記実務検定試験出題範囲	35

【出題方針と審査基準について】

令和5年度に実施されました第96回、第97回の全商簿記実務検定試験の出題方針と審査基準、また全国の先生方からいただきましたご意見・ご要望につきましてご説明いたします。なお、いただいたご意見やご要望につきましては、基本的に原文どおりに掲載しておりますのでご了承ください。

1 出題の方針について

全商簿記実務検定は、日頃の学習の成果を測定するという面を持っております。学習指導要領に示された内容にしたがい学習していれば、ある程度の目標が達成できるようにという観点で作問しております。また、下位級については奨励級として位置づけ、基礎・基本に重点を置くことを踏まえながらも、次学年での学習につながるよう、一部ですが思考力を問う出題をいたしました。さらに、上位級については、上位級としての基本的な出題をしつつ、可能な限り新鮮みある問題を取り入れ、思考力・判断力を問う出題を心掛けました。

(1) 出題の範囲

出題の範囲については、現行の学習指導要領にもとづいて作成された「出題範囲表」にしたがい、一部に偏りが出ないように配慮しながら、全般にわたって出題いたしました。

1級会計・原価計算に関して、96回については平成21年告示の学習指導要領に基づいて作成し、97回検定については平成30年告示の学習指導要領に基づいて作成しました。

(2) 出題の資料

教科書および過去に出題した全商簿記実務検定ならびに全国簿記教育研究協議会でのご意見を考慮し、作問の資料といたしました。また、新しい会計基準に関した最新文献・論文等も参考といたしました。

なお、全国から4名の道府県代表作問委員にご参加いただき、どのような問題を出題するか決定する「アイディア会議」をおこない、全体の骨組みを決定し、専門委員および道府県代表作問委員で各級を分担して作問しております。

《3級》

3級については、簿記の基礎・基本を対象としているので、簿記の基礎原理・仕訳・元帳記入・補助簿記入・伝票の起票・計算と用語の問題・決算など全分野にわたり出題いたしました。出題の形式については、**1**は仕訳の問題、**2**は伝票の起票、**3**は帳簿記入、**4**は計算・用語等の問題、**5**は決算の問題としました。奨励級として、基礎・基本を重視しながらも、一部、思考力を問う問題としました。

(96回) **4**(1)は用語の問題、(2)は資本金勘定と資料から金額を求める問題としました。**5**は決算整理仕訳から精算表を完成させ、備品勘定と給料勘定の記入・締め切りをする問題としました。

(97回) **4**(1)は用語の問題、(2)は文章形式の計算問題を出題しました。**5**は決算整理仕訳から精算表を完成させ、備品勘定と受取手数料勘定の記入・締め切りをする問題としました。

《2級》

2級については、**1**は仕訳の問題、**2**は計算や用語等、本支店に関する問題、**3**は伝票、**4**は帳簿組織、**5**は決算の問題、**6**は株式会社の問題としました。

(96回) **2**(1)は勘定記入から金額等を求める問題、(2)は用語の問題としました。**5**は損益計算書の作成と勘定記入の問題としました。

(97回) **2**(1)は建物台帳と総勘定元帳（一部）から金額を求める問題、(2)は用語の問題としました。**5**は貸借対照表を作成し、損益計算書に記載する売上原価の金額を求める問題としました。

《1級：会計》

1級会計については、96回に関して、**1**は仕訳の問題、**2**は分析・連結財務諸表等の問題、**3**は用語の問題、**4**は財務諸表の作成に関する問題としました。97回に関しては新しい学習指導要領に基づいて作成し、**1**は用語等の問題、**2**は計算等の問題、**3**は決算の問題、**4**は仕訳の問題としました。

(96回) **2**(1)は2期比較を行う問題で、資料から比率を求める問題、文中の数値を求める問題や適当な語を選択する問題としました。**2**(2)はのれんの金額を求める問題、(3)は資料から連結

損益計算書・連結株主資本等変動計算書・連結貸借対照表を作成する問題としました。

(97 回) ①(1)は、用語の問題としました。②(1)は連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書・連結貸借対照表の()に記入する金額を求める問題、(2)は貸倒見積高を求める問題、(3)は2期比較を行う問題で、資料から文中の数値を求める問題や説明文の適切なものを選択する問題としました。

《1 級：原価計算》

1 級原価計算については、96 回に関して、①は仕訳の問題、②は総合原価計算の問題、③は計算等、④は個別原価計算の問題としました。97 回に関しては新しい学習指導要領に基づいて作成し、①は用語・計算等の問題、②は総合原価計算の問題、③は個別原価計算の問題、④は仕訳の問題としました。

(96 回) ②は工程別総合原価計算からの出題としました。③(1)は資料から製造報告書に記載する金額を求める問題としました。(2)は部門別個別原価計算での金額を求める問題、(3)は直接原価計算の問題、(4)は標準原価計算の問題、(5)は用語の問題としました。④は単純個別原価計算の出題としました。

(97 回) 新しい学習指導要領に基づいて出題しました。①(1)は用語の問題、(2)は貸借対照表(一部)と資料から製造原価報告書の内容を求める問題、(3)は等級別原価計算の問題、(4)は減損が発生する単純総合原価計算の問題、(5)は標準総合原価計算の問題、(6)は直接原価計算の問題としました。②は組別総合原価計算の問題、③は個別原価計算の問題としました。

なお、各級とも、出題内容に偏りがないよう努めておりますので、出題の順番にかかわらずくまんべんなくご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。

② 審査基準について

(1) 審査基準は、受験生の成績に大きな影響を与えますので、その作成には十分に注意を払いました。

(2) 採点箇所には、次の4つの点に配慮しております。

① 大きな問題では、その中心となる部分ばかりではなく途中の段階および最終の段階も採点箇所としました。

② 1 箇所誤ったことにより、他の採点箇所も減点されることがないように極力配慮いたしました。なお、当期純利益などの最終段階はこれに該当しないと考えております。

③ 過去に出題されていない新しい傾向の問題では、採点箇所に十分な配慮をいたしました。

④ 配点は各級とも、原則1箇所4点または3点といたしましたが、一部に2点の配点を加えました。

〔総括〕 全国からのご意見

第96回

① 出題において、迷わせるではなく、考えさせる思考力・判断力を問う新しい視点での工夫が見られた。(宮城)

② 各級とも適切な問題でした。(秋田)

③ 多くの学校より良問であったとの回答をいただきました。(茨城)

④ 良問であった。特に意見等なし。(栃木)

⑤ 全体的に良問でした。運営上も全く問題ありません。(山梨)

⑥ 全体的に良問であるとの意見が多くありました。(大阪)

⑦ 全般的に良問であった。(山口)

⑧ 正答率の低い級もあったが、全体的には良問であった。(宮崎)

第97回

① 各級とも適切な問題でした。(秋田)

② 適問でした。(山梨)

③ 各級の英語に関する問いは必要なのか。範囲表などもないため、どのような用語が出てくるのかわかりづらく、指導も難しい。(富山)

- ④ 「線（合計線，区切り線，締め切り線など）については，特に指示のない限り，採点対象としない」といった内容の文言を「審査基準の一般注意」に明記してほしい。（愛知）
- ⑤ 英語表記の問題で，３級でも出題されそうな内容が２級や１級で出題されているが，出題範囲に差はあるのか？（滋賀）
- ⑥ 当日の問題訂正が出来る限りないようにお願いしたい。（京都）
- ⑦ 各級良問であったという意見が多かったです。（大阪）
- ⑧ ３級でも２級でも総勘定元帳への転記が「日付と金額のみ」となっていたが，３級では特に日付・相手科目・金額を書かせる方が良いのではないか。（採点箇所とするかどうかは別として）（山口）
- ⑨ 全体的に標準レベルの問題であったと思われる。（福岡）
- ⑩ 一般注意（３）に関して，黒記で記入すべき箇所を赤記した場合の基準を記載して欲しい。（宮崎）

【お願い】

○「簿記実務検定試験アンケート」について

- ① ご意見・ご要望は，新システムからご回答ください。
- ② 送信前に，文章について誤字等がないか再度チェック・ご確認ください。
（管理職に決裁をいただってください。）
- ③ 提出は期日厳守でお願いします。期日までにご回答のない場合は「意見なし」として処理いたします。

【第3級】全国からのご意見

第96回

全般

- ① 良問。(徳島・長崎)
- ② 良問である。(岡山)
- ③ 良問でした。(愛媛・佐賀・熊本)
- ④ 新検定に代わって2回目の実施でしたが、解きやすい内容であった。(静岡)
- ⑤ 新検定3級を初めて解いたが、大問3に重点を置いた問題構成に感じた。なお、大問4は大問2の前後に配置してもよいと思う。簿記会計以外の分野に重点を置く学校が増える中で、帳簿記入の基礎・基本を習得できる検定問題を3級段階で学べることの意義は大きいと感じた。(千葉)
- ⑥ 新検定になり、3級大問3のような総勘定元帳への転記を中心とした問題に、出題の重点がシフトしたように思う。どちらも解答に時間は要すため、望ましい出題傾向の改変であったと思う。(千葉)
- ⑦ 導入級として簿記の基本である仕訳問題が少ないように感じる。(京都)
- ⑧ 英語表記の問題は今後も出題されるか？(京都)

1 仕訳

- ① c. 「〇〇商店は～出資した」というような表記は教科書にあるのでしょうか。出資は個人がするものなので、和歌山商店が出資したととられてしまう文章は不自然に感じられました。(大分)
- ② d. 良問でした。小口現金についてしっかり勉強している生徒は解けていました。(沖縄)

3 帳簿記入

- (3) ① 良問でした。流れを理解している生徒は、合計試算表までしっかり解けていました。(沖縄)
- ② 27日 誤答が多かった。(宮崎)

4 計算・用語

- (2) ① 解けない(空白)、誤答が多かった。(宮崎)

5 決算

- (2) ① 良問でした。減価償却費の計算や、損益の書き方を理解している生徒は解けていました。(沖縄)

第97回

全般

- ① 良問(長崎)
- ② いずれも良問です。(青森)
- ③ 良問でした。(岩手・佐賀)
- ④ 良問であった。(鳥取・島根)
- ⑤ 良問である。(岡山)
- ⑥ 全体的に良問だった。(香川)
- ⑦ 難易度、出題量、配点等において、全体的にバランスのとれた良問であった。(宮城)
- ⑧ 全般的に基本的な問題で良問でした。(山形)
- ⑨ 基本的な問題で良かったと思う。教科書内容にそった適切な問題でした。(福島)
- ⑩ 全体的には解きやすく、網羅されて良問であった。(東京)
- ⑪ 全体に良問でした。新検定形式に私たち教員が慣れる必要性を感じました。(長野)

- ⑫ 基礎級として、概ね良問であった。(三重)
- ⑬ 適切な問題だと思います。(兵庫)
- ⑭ 新検定3級を初めて解いたが、大問3に重点を置いた問題構成に感じた。なお、大問4は大問2の前後に配置してもよいと思う。簿記会計以外の分野に重点を置く学校が増える中で、帳簿記入の基礎・基本を習得できる検定問題を3級段階で学べることの意義は大きいと感じた。(千葉)
- ⑮ 新検定になり、3級大問3のような総勘定元帳への転記を中心とした問題に、出題の重点がシフトしたように思う。どちらも解答に時間は要するため、望ましい出題傾向の改変であったと思う。(千葉)
- ⑯ 時間数が減っているので、検定対策が大変ですが、予想に頼らず全範囲を学習する指導を求めていると感じました。全体的に基本的な問題が出題されており、良問でした。(熊本)
- ⑰ 導入級として簿記の基本である仕訳問題が少ないように感じる。(京都)
- ⑱ 帳簿の問題としての仕訳は基本的なものが望ましいと思うが、1番の仕訳の問題としては、もう少し考えさせる内容があっても良いのではないかと。(山口)
- ⑲ 配点箇所が多かったです。計算問題や語句、決算問題の配点を増やしてもよいと思います。(愛媛)
- ⑳ 採点の箇所を再検討してほしいです。(例えば、総勘定元帳の記帳に必要な箇所や伝票の摘要を採点してもらうことで、思考・表現に対応できるのではないのでしょうか)(熊本)
- ㉑ 試験時間が90分間は長い。60分でよいのではないかと。(大阪)
- ㉒ 内容から言って、試験時間90分は必要ないのではないかと。(山口)
- ㉓ 英語表記の問題は今後も出題されるか？(京都)

1 仕訳

- ① a. 営業用の机といす・・・営業用にどうしようするのか。事務用ではないのか。(東京)

3 帳簿記入

- (1) ① 所得税預り金の前期繰越がなかったが、給料支払いの翌月10日までに納付することになっている。もし、前月に支払っているのであれば、当月分はいつ納付するのか。整合性は？(東京)
- ② 現金で受け取り、直ちに当座預金とした。で、現金を仕訳せず、当座預金としているが、他人振出の小切手とは違い、現金を仕訳し、総勘定元帳や現金出納帳に記録して残しておく必要はないのか。(東京)
- ③ 保険料¥900は年払いか。(東京)
- ④ 使わない総勘定元帳があるのは、何か意図があるのでしょうか。無いのなら除いてほしい。(愛知)
- ⑤ ③(1)仕訳帳の記入方法は()あり、()なしどちらでも良いはこれからも続くのか。教科書の出版社によって違うのは指導しづらい。(奈良)
- ⑥ 1/10と1/19の元帳欄は、採点箇所に入れても良いのではないかと。(香川)
- ⑦ 仕入時か売上時の取引の中に、返品や値引きの取引を各回ともに出題すべきではないのか。(徳島)
- ⑧ 総勘定元帳への転記は、相手勘定まで書かせたいです。(熊本)
- ⑨ 仕訳帳の区切り線について、採点時の対応について記載して欲しい。(宮崎)
- (2) ① 売掛金元帳(買掛金元帳)は略式でなくても良いのではないかと思います。(熊本)

4 計算・用語

- (1)① 英語表記の問題については、ある程度範囲をあらかじめ発表してほしい。英語が苦手な生徒は、学習時間を大分費やしたようである。(山形)
- ② b (ア) 正答率が低かった。(香川)
- (2)① b 良問でした。計算問題をしっかり勉強している生徒は解けていました。(沖縄)

5 決算

- ① 検定試験の実施日が28日であれば、受験生の演習量が多く確保されるため、精算表よりも、損益計算書及び貸借対照表を作成する問題の方が良かった。(秋田)
- ② 備品勘定への転記問題が95回から3回連続して出題されているため、他に貸倒引当金や仕入勘定など、工夫された作問があっても良かった。(秋田)
- ③ 精算表の解答用紙ですが、3級は奨励級だということは理解しております。しかし、決算時に作成以前から「当期純利益」だとわかっていることがあるのでしょうか出題の意図を教えてください。(第96回も同様) これからも決算の作表問題が出題されると思いますが、利益なのか損失なのかをあらかじめ表示するのは、避けていただきたい。(東京)
- ④ 精算表内の「現金」が採点対象となっていた。決算整理仕訳によって金額が変わるため、採点個所とするのはいかがか。(静岡)
- ⑤ 精算表に当期純利益が明記されていたが、従来のように()として出題したほうが良い。(三重)
- ⑥ 資本金、仕入、貸倒引当金繰入の採点個所の指定は金額が記入されるべきではない箇所に「不要な記入がある場合誤答とする」ことを指定されているのでしょうか。もしそうであれば、注意書き等で説明しておくべきではないでしょうか。(福岡)

【第2級】全国からのご意見

第96回

全般

- ① 良問である。(栃木・岡山・山梨)
良問であった。(鳥取)
良問(徳島)
良問でした。(愛媛・佐賀・熊本)
- ② 平均的な良問である。(福井)
- ③ 全体を通して、基本的な知識や技術が幅広く身につけているかを問う良問であった。(滋賀)
- ④ 仕訳問題が①・⑥に分野別で分かれており、生徒たちは勉強しやすく、指導する側も指導しやすくなった。(奈良)
- ⑤ 出題において、迷わせるではなく、考えさせる思考力・判断力を問う新しい視点での工夫が見られた。(宮城)
- ⑥ 従来2級では決算に関する学びを意図したB/S、P/Lの作成が、8題の仕訳と並び、問題構成の中心であるという印象があったが、新検定2級では大問4のような帳簿記入の基礎・基本を習熟させることを意図した問題に、出題の重点がシフトしたように感じた。(千葉)
- ⑦ 新検定になり、大問4のような総勘定元帳への転記を中心とした問題に、出題の重点がシフトしたように思う。どちらも解答に時間は要するが、帳簿記入の基礎・基本の熟達には欠くことの出来ない学習・作業であるため、望ましい出題傾向の改変であったと思う。(千葉)
- ⑧ 全店に関する仕訳を解答するのではなく、1つの仕訳に絞られたためか誤答が多かった。(三重)

1 仕訳

2 計算・用語・本支店

- ① 仕訳と同じ4点問題なので、配点が大きいと感じています。(熊本)
- (1)① 経過勘定の勘定記入を問う良問である。この問題の難易度は高いが、他の問題とのバランスがとれていると思う。(滋賀)
- (2)① 検定試験において、英語で問う必要性があるのか。(宮崎)
- ② 難易度が高くなっている印象を受けました。(大分)

3 伝票

- ① 例年どおりの出題形式で、良問でした。(沖縄)

4 帳簿組織

- ① 良問でした。良く出題される妥当な仕訳問題であり、仕訳を反復学習した生徒は解けていました。(沖縄)
- ② 6月30日を31日と記入する誤答が多かった。(静岡)

5 決算

- ① 有価証券売却益と有価証券評価益を同じものだと勘違いしてしまい、迷っている生徒が多かったです。(熊本)
- ② 一部だけでも、決算整理仕訳を答えさせる問題があってもよいのではないかと。(長崎)

6 株式会社会計

第97回

全般

- ① 良問である。(岡山・愛媛・長崎・佐賀・熊本・沖縄)
良問でした。(岩手)
- ② 生徒の努力が報われる良問だったと思います。(埼玉)
- ③ 全体的には解きやすく、網羅されて良問であった。(東京)
- ④ 新検定の内容を反映した良問であった。問題集による指導ではない「教科書」を使用しての授業を大切に
する問題であった。(京都)
- ⑤ 台帳や帳票の読み取りに時間を要した生徒が見られたが、帳票から仕訳を問う形式は、実務に即した
考えられた出題であった。(宮城)
- ⑥ 計算問題をしっかり勉強している生徒は解けていました。(沖縄)
- ⑦ 固定資産台帳や証拠書類(証ひょう)からの仕訳など、ビジネスの実態に即した出題であり、良い問
題であった。(島根)
- ⑧ 仕組みを理解していないと正しく回答できない問題であり、良い問題であった。(島根)
- ⑨ 全体的に標準レベルの問題であったと思われる。(福岡)
- ⑩ 適問でした(山梨)
- ⑪ 従来通りのなかに問題の理解を問う良問だった。全体的な範囲から出題しており、ボリュームも適切
であった。(兵庫)
- ⑫ 年度内での出題範囲は控えてほしい。もし変更があるならアナウンスはもっとわかりやすくしてほし
い。(徳島)
- ⑬ 新検定になり、問題の構成が変わったのはサンプル問題等で確認できていたが、問題の傾向自体も変
化が大きく生徒も対応できず合格率も例年より低かった。新検定については模擬問題集等で学習するの
が難しいので、内容、傾向に関しては過去問題から離れた出題はやめてもらいたかった。(埼玉)
- ⑭ 全体的に問題形式が違いすぎる。日商寄りの問題にしくなくても良いのでは?全商は全商として、学校、
教科書、指導要領に準ずる検定であるべき。全体的に難易度が上がっていると思う。(福島)
- ⑮ 計算問題が難しくなっていてよい問題だとは思うが前回との差がありすぎ(福井)
- ⑯ 全般的に出題傾向が大きく変化しすぎていた。(福岡)
- ⑰ 出題傾向が変わり、戸惑う生徒が多数いた。(静岡)
- ⑱ 大問4・5の問題量が多いため、問題・配点ともに改善すべきだと考える。(栃木)
- ⑲ 聞き漏らしていたら申し訳ありません。1と6に仕訳の問題が分かれているのは、昨年の感想の中に
もありましたが、生徒が何を問われているか明確にしているという認識でよいのでしょうか。(長崎)

1 仕訳

- a ① 97回から出題範囲となった「電子記録債権」の仕訳に戸惑う生徒がいました。(熊本)
- ② 電子記録債権の出題について 教科書に記載のない問題は出題しないという申し合わせだったと記憶
していますが、高校簿記(実教出版)では発展学習の欄に記載されている論点でありそのあたりの整理
をお願いします。(大阪)
- ③ 新しい出題範囲である電子記録債権について、2年後の切り替え、移行完了で、実際に企業で使用さ
れてからの出題にしても遅くないのではないかと。3問しか出題されない仕訳で全体的な重要度で出題を
考えてほしい。教科書でも「発展的な学習」でしか取り扱っていないにもかかわらず、出題はナンセン
スだと思う。(福島)

2 計算・用語・本支店

- ① 計算問題については、建物台帳や本支店会計等良問であった。(東京)
- ② 計算問題の正答率が低かった(福井)
- ③ 計算問題の出題のされ方が変わって、戸惑う生徒が多かった。(山口)
- ④ 大問2自体の配点が変わっただけでなく、出題自体に安定性がないと考える。(静岡)

⑤ かなりのボリュームがあるように感じる。(兵庫)

(1)① 減価償却について、総合的に問う良問であった。(静岡)

② 「建物台帳」と「総勘定元帳」に関する問いは理解度を確認できる良問だった。(長野)

③ 出題の方法がよい(福井)

④ 受験生は、これまでにない出題形式で戸惑いが多かったです。建物台帳を見てパニックになり、普段しないミスをする生徒が多いように感じました。一巡を理解していないと解けないので、一巡を意識した授業づくりが大切だと実感しました。(熊本)

⑤ 建物台帳から減価償却費や減価償却累計額を考えさせるなど良問である。(徳島)

⑥ 固定資産台帳についての出題は、「仕訳を形やパターンで覚えている生徒」と、「減価償却とは、間接法とは、どういう仕組みなのか理解している生徒」と、差別化できる問題で、とても良かったと思います。この問題を使わせていただき、減価償却について、もう1度授業で取り上げたいと思いました。

(千葉)

⑦ 建物台帳の出題には戸惑った。良問ではあるが、配点が高いのではないかと。(奈良)

⑧ 問題の情報提供の仕方が、「建物台帳」という形であったので、戸惑う生徒もあった。(三重)

⑨ 建物台帳は初出題で戸惑っている生徒が多かった。教科書に記載があるため、私たちもしっかりと読み込んで指導するように注意したい。(滋賀)

⑩ 建物台帳はあまりみかけない。とまどう生徒が多いのではないかと(福井)

⑪ 建物台帳の見方について指導できない。(福岡)

⑫ 「固定資産台帳」と減価償却の関係性が理解できていない受験生が多くみられた。簿記の各教科書の固定資産の章の単元で「固定資産台帳」の例は示されているが、決算時の減価償却を学習する際に「固定資産台帳」を含めて解説することはほとんどない。どちらかというと棚卸表の記入は総合実践でも説明はするが、簿記の学習ではほとんどしていない。今後、このようにあまり重要視されていない問題(帳簿)についても学習していかなければならないのか…という意見もあった。建物台帳は2年から5年の4年間記帳されているが、総勘定元帳(一部)には令和5年分しか示されていないので、関係性を理解できていない受験生が多くみられた。(鳥取)

⑬ 建物台帳は教科書に書いてあるとはいえ、まれに見るもので対応できない生徒が多かったです。出題する必要があるのか疑問に思いました。(茨城)

⑭ 固定資産台帳(建物台帳)の読み取りと勘定記入の関係が出題されたが、出題範囲表には台帳は明記されていない。記入させる問題ではなくても、明示していないものを出題すべきでない。速やかに範囲表に追加記載すべきであるとともに、今後は範囲表との整合性チェックを高めていただきたい。問題自体は、今後も出題して頂きたい内容であった。(埼玉)

⑮ 実教出版の簿記の教科書には、固定資産台帳の記載例は示されているが、記帳方法については記載なしである。今回の出題で8点配点となり受験者に大きな影響が出たのではないかと。(栃木)

⑯ 建物台帳を細かく指導することがないので、生徒は初めて見た問題に戸惑っていた。(兵庫)

(3)① 本支店会計の出題は、95・96回のように仕訳のみが妥当ではないかと。(栃木)

② IVの資料はなくてもよい?(福井)

③ 資料のvかviどちらかの記載だけで良かったのではないかと感じる。(静岡)

④ 資料ivはなくても解答できますが、これを記載した意図は何でしょうか。(大分)

⑤ 過去問に比べ処理量がかかなり多い(福井)

⑥ IVの資料はIの資料と同様に、12月30日現在で提示した方が思考力が試されるのではないかと感じた。(鳥取)

⑦ 本支店会計の計算問題の誤答率が高かった。(鳥取)

⑧ 本支店の問題が過去2回と随分形式が変更されたことで、戸惑う生徒が多かった。(三重)

⑨ 本支店の模擬問題の中に少なく、「TAC」の問題集の中に1つで「とうほう」「実教」にはなかったので、その辺りを相談して作問して欲しいと感じた。(静岡)

⑩ 本支店間の勘定残高の一致は問わないのか?4問とも合併後の問いであった。(京都)

3 伝票問題

- ① 仕訳集計表をすべて作成する問題ではなく、部分的に問う問題でよかった。(奈良)
- ② 仕入・売上の各取引について、代金決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法の出題であった。この出題では、1月10日横浜商店との取引は、代金の一部を現金で受け取った取引にするべきであったのではないか。(栃木)
- ③ 伝票で「いったん掛け取引として処理する方法」という部分が読み取れておらず、生徒のミスが目立った。(滋賀)
- ④ 実務を意識して3伝票制へ範囲改定した意義から考え、「売上・仕入取引をすべて掛け処理にする」という出題は、違和感があった。(宮城)
- ⑤ 取引の決算条件が過去問より難しい(福井)
- ⑥ 一部現金取引がある場合、「仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法で記帳している」という条件が必要なのは理解できます。しかし、商品売り渡して現金のみで受け取った取引を、あえていったん掛け取引とする処理を求めた出題でした。この問題には上記の条件は必要だったのでしょうか。また、問題文に指示があるので、入金伝票のみで処理をしてしまった場合は誤答になるのでしょうか。自信をもってその処理は間違っていると説明しにくいところです。この問題は、生徒のどのような力を見たかったのでしょうか、出題の意図をぜひ説明していただきたい。(東京)
- ⑦ 仕訳集計表合計額の2点で不合格になってしまった生徒が多数いました。年2回しか受験チャンスがありませんので、非常に残念です。(東京)
- ⑧ いつもは、ただし i というように条件が書かれているが、今回は一行目の問題の中に、全ていったん掛け取引として処理する方法と書かれているため見逃している生徒が多かったのではと思う。(香川)
- ⑨ 「すべていったん掛け」の表記は出来るだけ「取引」の近くに表記してほしい。これを見逃したことで(ウ)を間違えた生徒が一定数いた。(静岡)
- ⑩ 伝票集計を行う際、問題用紙に仕訳に戻して書く(メモする)余白スペースをもう少しつくって欲しい。(長野)
- ⑪ 売上伝票がないのに、売上取引を一旦掛けにする必要がないのでは。(愛知)

4 帳簿組織

- ① 証憑が出ており、現実に即した形で良かったと思います。(大分)
- ② 証票の問題は実務を意識していて良いと思います。(熊本)
- ② 買掛金元帳の残高欄の採点箇所に「借または貸」の欄も含めた方がよいのではないかと。(山口)
- ③ 29日や25日の問題の出し方が良い(福井)
- ④ 1/25 掛け売上と発送費を別取引にして問題を分けたのは良かった。(愛知)
- ⑤ 取引の領収書・請求書の読み取りが難しい(福井)
- ⑥ 請求書の金額の見方は、商業経済検定で出題されるため、簿記検定には適していないのではないかと。(福岡)
- ⑦ 難易度は、例年並みであったが、「領収書」や「請求書」の図が出題されていたことに戸惑いがあった生徒もいた。(静岡)
- ⑧ 仕入帳の採点箇所が1つで、もう少し採点箇所を増やして欲しいと感じた。(静岡)

5 決算

- ① 土地勘定はあるが、建物がなく(今後新築予定ならわかるが)、地代の受け取りがあり、自社では、建物を借り家賃を支払っている。土地は他人に地上権又は賃借権を設定しているのか。土地の使用目的が・・・?(東京)
- ② 元帳勘定残高で「受取手形」「電子記録債務」勘定がどちらかに統一して欲しいと感じた。「受取手形」なら「支払手形」,「電子記録債権」なら「電子記録債務」というように統一して欲しいと考える。(静岡)

6 株式会社会計

【第1級会計】全国からのご意見

96回

全般

- ① すべてにおいてオーソドックスな問題で適問である（福井）
- ② 多くの学校より良問であったとの回答をいただきました。（茨城）
- ③ 良問であった。特に意見等なし。（栃木）
- ④ 概ね良問であった。（三重）
- ⑤ 良問だった。基礎的なレベルであるが、問題文の随所に引っ掛けがあったように思います。（兵庫）
- ⑥ 良問であった。（鳥取県，岡山県，徳島，愛媛，佐賀，長崎，熊本）
- ⑦ 解答用紙の裏表は採点も行いにくいので避けてほしい。（愛知）

1 仕訳

- g ① 良問だった。（香川）
- ② 誤答が多かったようです。発行可能株式総数を問題文に記載する意図（ミスを誘うためなのか、これがないと問題として成り立たないのか）を教えてください。（大分）
 - ③ 「万株」に少し戸惑っていました。（熊本）

2 分析・計算等

- ① 解きやすい問題だった（香川）
- (3) ① 株主資本等変動計算書について、合計欄の記載がないのはなぜでしょうか。（大分）
- ② 仕訳ができるが計算書の正答率が低いです。（熊本）

3 適語選択

- ① 教科書の初めの方に記述してある内容だが、間違いが多くて残念でした。（熊本）
- ② 誤答が多かった（香川）

4 貸借対照表・損益計算書

- ① 解きやすい問題だった（香川）
- ② 子会社株式については大問1の仕訳での出題ではなく、大問4で出題している意図は何でしょうか。（大分）

97回

全般

- ① 良問（北海道，青森，岩手，茨城，長野，三重，鳥取，島根，岡山，山口，香川，長崎）
- ② 全体的に基本的な問題で良問でした。（山形）
- ③ 新検定の内容を反映した良問であった。問題集による指導ではない「教科書」を使用しての授業を大切にする問題であった。（京都）
- ④ 全体的に基本的な問題でよかったと思う。教科書の内容にそった適切な問題でした（福島）
- ⑤ あまりクセがなく，解きやすい問題でした。（千葉）
- ⑥ 全体的には解きやすく，網羅されて良問であった。（東京）
- ⑦ バランスのいい問題でした。（佐賀）
- ⑧ 難易度としても適当であった。今後もこの程度の難易度，範囲部分を出題して欲しい。（長野）
- ⑨ 出題範囲や傾向が変わって初めての検定試験であったが，オーソドックスな問題が多く新検定へスムーズに移行できた。（滋賀）
- ⑩ 全体を通して，基本的な知識や技術が幅広く身につけているかを問う良問であった。（滋賀）
- ⑪ 全体的に解きやすい問題でした。（大分）
- ⑫ 例年通りで良問でした。（沖縄）
- ⑬ 適問でした。（山梨）
- ⑭ 会計は計算用紙の代わりになるスペースが十分確保できた。（徳島）
- ⑮ 余白にメモ書き・計算は，生徒が解きづらいので計算用紙を入れてほしい。（栃木）
- ⑯ 問題用紙の余白が少ないと感じました。計算用紙を廃止しているとはいえ，計算や下書きのスペースをもう少し多めに確保してほしいです。（東京）
- ⑰ 97回から計算用紙がないのですが，3の決算については，読みやすくする空白のページがあるので活用できますが，2（1）の連結の問題については，修正仕訳等をメモするところが少ないので，計算用紙は必要だと思いました。（福島）
- ⑱ 事前に計算用紙がないことは知っていましたが，計算用紙があったほうが良いと感じました。（茨城）
- ⑲ 計算用紙をつけて欲しい（石川，大阪）
- ⑳ 計算用紙が今回から無くなって，こちらで用意することもやめてほしいと言われたのに，計算する場所が少なくて生徒も困っていた。計算用紙をなくすなら，問題に余白を1ページつけていただくような工夫をお願いしたい。（福井）
- ㉑ 計算用紙を用意して欲しかった。（複数の学校より）（長野）
- ㉒ 計算用紙の廃止は資源や経費の削減のため非常に良いことである。（滋賀）
- ㉓ 余白が少ないと感じるところがあったため，生徒の解答する姿を十分想像しながら余白を考慮して作問していただけるとありがたい。（滋賀）
- ㉔ 計算用紙が配布されないのであれば，計算できるスペースを問題用紙内に増やすべきである。（滋賀）
- ㉕ 計算用紙がなくなり，生徒は問題用紙に書き込んでいたがスペースが少なく困っている様子であった。今回の問題量が今後も続くのであれば，計算用紙をできれば配布してもらいたい。（兵庫）
- ㉖ 連結財務諸表の問題で，作業の量のわりに配点が低い。用語の配点を減らし，連結を増やしても良いのではないのでしょうか。（神奈川）
- ㉗ 全体的に日商簿記検定2級に近いような問題となっている。全商として高校生が受けることも目的として作っていただきたいと感じました。出題の意図を教えてください。（茨城）
- ㉘ 個々の問題は，それほど難しくなかったとは思いますが，やはり過去問題の存在が大きく，今回は出版社の問題集を頼りにしなければならない現状で，生徒が不安なまま検定を受けたという印象です。（埼玉）
- ㉙ 新検定への移行を配慮して下さり比較的解き易い内容で，合格率が高くなりそうです。そのため次回の出題から難易度が上がると思いますので，次もサンプル問題を用意し，難易度が上がる予告があるといいです。（埼玉）
- ㉚ 全体を通して取り組みやすい良問だった。新しい範囲からの出題がほとんどなかったため，受験した3年生にとっても解きやすかった。模擬問題集は新しい範囲を網羅した問題でかなり難しかったけど，今後それくらいのレベルにあげていくのかきになるところ。（福井）

- ③① サンプル問題はあったにせよ、新範囲がどの程度出題されるかわからず、授業時間数もそこはかなりとられてしまった。その割には出題された新範囲のウエイトは、かけた時間を考えると軽いものであった。(奈良)
- ③② 基本的な知識を問う問題から、資料を読み取り解答する目新しい問題まで出題されており、バランスが取れた構成で新範囲へスムーズに移行されたと感じた。(宮城)
- ③③ 出題に一定の工夫が見られ、今後の見通しの持てる考えられた問題であった。(宮城)
- ③④ 大問2(連結会計)を解くスペース(タイムテーブルや仕訳を書くスペース)が足りなかった為、ぜひ、計算用紙の配布をお願いしたいです。(仕訳やタイムテーブルを書かなくても解くことができるとの意見もあるでしょうが、基礎基本を大切にする全商検定だからこそ、様々な指導方法があることをご理解ください)。計算用紙の件など、変更点はWebの問題訂正のページにも掲載していただくと助かります。(熊本)
- ③⑤ 点数の配分を考えてほしいです。(財務分析は時間がかかりますが、2問完答で一つ〇など…)(熊本)
- ③⑥ 各問題の配点がバラバラで点数の計算がしづらいつと感じた。受験者数も多いので、ミス等なくすためにも、もう少し配点への配慮をお願いしたい。(埼玉)
- ③⑦ 各級の英語に関する問いは必要なのか。範囲表などもないため、どのような用語が出てくるのかわかりずらく、指導も難しい。(富山)
- ③⑧ 英語表記の問題は今後も出題されるか?(京都)
- ③⑨ 税効果会計の問題がどこかに出ていても良かった。(静岡)
- ③⑩ 検定の回ごとの難易度にバラつきが出ないか心配である。(静岡)
- ③⑪ 出題で難易度を高くしないようにする配慮を感じた。(鳥取)
- ③⑫ 新検定において1級(会計)の範囲が広くなり、指導に苦慮する。新しい範囲が入るのは良いが、カリキュラム上の限界もある。(京都)

1 適語選択

- (1)① 問題文を「・・・貸借対照表において、純資産の部の[エ]から控除する形式で・・・」と出題した方がよいのでは? 解答は、「株主資本」となりますが。(鳥取)
- ② 「株主資本」から控除すると表現したほうがよいのではないか。(佐賀)
- ③ 2行目の「税引前当期純利益と課税所得を合理的に対応させる」という表現に疑問がある。(佐賀)
- (2)① 難易度としても適当であった。今後もこの程度の難易度、範囲部分を出題して欲しい。(長野)
- ② 1級にしては易しい印象を受けました。級に即した用語を出題してほしいです。また、レベルに関する指針を出してほしいです。(大分)
- ③ 英語選択問題が全商簿記2級レベルである。(鳥取)
- ④ 単語の1文字目が大文字なのは、なぜか。小文字であるべきではないか。(鳥取)
- ⑤ 英語表記の出題数が少なく、容易すぎるので、より、英文会計に興味を持てるような出題形式を望む。(鳥取)

2 分析・計算等

- ① 教科書の内容を踏襲していると思うが、授業の取り組みだけで全ての商業高校生がコンスタンスに解けるのだろうか?(宮崎)
- (1)① 教科書には土地の評価差額の表記はないが、某出版社の模擬問題には出題されている。これから出題の予定はあるのか。(山形)
- ② 連結会計について、評価差額の処理は出題範囲から外れたのか教えていただきたい。また、出題範囲表の勘定科目一覧から連結会計に関する勘定科目が削除されているがその理由も教えていただきたい。(滋賀)
- ③ 連結会計については、財務諸表の作成は出題範囲表には記載されていないが、実際は出題されています。勘定科目欄からも非支配株主持分なども削除されており、そのあたりの整合性を整理してほしいと思います。(大阪)
- ④ 連結会計においては、問題用紙の財務諸表を解答用紙に移動して、数字を書かせる形式にした方が理解が深まるのではないかと考える。(鳥取)
- ⑤ 計算スペースが少なく解答しづらいように思う。(滋賀)
- ⑥ 連結財務諸表が2ページにわたっていたので見づらく、なんとか前のページに収めることができないか。(長野)
- (2)① **2**(2)の問題はどこの模擬問題にも出てきておらず、生徒にとっては厳しい問題であっ

た。(奈良)

② 仕訳でなく計算問題として出題に工夫を感じた。(静岡)

③ 貸倒懸念債権の問題はあまり解いていなかったため正答率は低かったです。その他は、解きやすい良問でした。(愛媛)

④ 指導不足で、間違いが多かったです。(熊本)

(3)① 思考力を問う、良問でした。(佐賀)

② 間違いが多かったですが、しっかり考えさせる問題なので良問でした。(熊本)

③ 文章の内容の理解と、分析の知識を問う良問であった。(静岡)

④ 今までにない問題であった。「資料ivをみて解答してください。」など、注記を入れてもよかったのではないかな。(三重)

⑤ 文章問題の表現がわかりにくい。(愛知)

⑥ 正答率が低かった(香川)

⑦ 資料の抜き出しではなく、財務諸表として表示されている方が読み取りやすいと思う。以前の出題形式の方が財務諸表分析検定へもつながると思う。(鳥取)

3 貸借対照表・損益計算書

① 新検定となったが、基本的な問題であったため、混乱もなく、全体的に良問でした。これまでの1級会計と比較すると難易度は低かったです。(熊本)

② 1級会計の決算が例年よりも少し難易度が低かったように感じた。(秋田)

③ リースや税効果会計による計算がなく、難易度が易しすぎると感じた。(静岡)

④ 1級会計の総合問題は、右半分が余白になっていたため解答しやすかった。引き続きこの形式にしていきたい。(滋賀)

⑤ 解答用紙について(決算が見開き解答となっていたので解答しやすい)(京都)

⑥ 問題が冊子となり決算の問題について右側にメモできるスペースがあり解きやすくなった。解答用紙も解きやすくなったが、貸借対照表は2ページ目にすべて集約しても良いのではないかな。(長野)

⑦ **3**の隣のページの余白は決算整理仕訳等がしやすく良かった。(奈良)

⑧ 「繰越利益剰余金」を採点箇所にすると、他を間違えたことで一気に8点減点となる可能性が高いので、避けていただきたい。(三重)

⑨ 税効果が出題されたが、今後、外貨建の決算時換算替え、リース資産の減価償却、リース債務の計上など、決算の問題の中でどこまで問うのか知りたい。(長野)

4 仕訳

① 仕訳全体を通して、難易度が低かった。もう少し新論点を入れてもよいのではないかな。(静岡)

② 7問中2問が新課程の範囲だったと思いますが、正答率は割と高かったです。(熊本)

c ① 裏書譲渡決済時の保証債務の問題の誤答率が非常に高かった。(鳥取)

f ① 為替など単純すぎるので深読みして間違える生徒がいた。(静岡)

② 外貨建取引における為替レートの変化を意識できるような出題にして欲しい。(鳥取)

【原価計算】全国からのご意見

第96回

全般

- ① 各級とも適切な問題でした。(秋田)
- ② 概ね良問であった。(三重)
- ③ 全体に良問でした。(長野)
- ④ 良問だったと思います。(兵庫)
- ⑤ 良問でした。(佐賀・熊本)
- ⑥ 良問であった。特に意見等なし。(栃木)
- ⑦ 良問であった。(鳥取)
- ⑧ 良問である。(岡山)
- ⑨ 良問(徳島・長崎)

1 仕訳

- ① b 金額を 270,000 と記入する生徒がいた。(福井)
- ② c 個別原価計算で完成品原価計上
製品 ××× 製造 ×××
e 等級別原価計算で完成品原価計上
1 級製品 ××× 製造 ×××
2 級製品 ×××
完成品原価計上の出題で2問の出題はいかがなものでしょうか。(茨城)
- ③ 借方 製品 / 貸方 仕掛品 の仕訳が c,e で重複しているのでバリエーションを増やすべきであるとする。(静岡)

2 総合原価計算

- ① 第1工程半製品の単価を総平均法で計算するという見たことのない問題に戸惑う生徒が多く、その先の解答にも影響を受け、正答率が低くなっていた。(兵庫)
- ② 第2工程振替高について、過去問のように問題用紙ではなく答案用紙の第1工程半製品勘定に書かれておりとても新鮮だった。ミスが連鎖しないように配慮しながらも資料の与えられ方が工夫された良問である。(滋賀)
- (3) ① 資料から平均単価を求め、売上原価を算出する方法は、斬新な出題であった。(宮城)
- ② 資料のdが読めないと失点が大い。点数の差が極点に出ていた。(静岡)
- ③ 第1工程半製品は前月繰越分との総平均法により単価を算出し金額を出すためできていない生徒がいました。その他良問でしたという意見が多数ありました。(愛媛)

3 適語・計算

- ① ③番(2)(3)で有利(不利)差異の問題があるので、④番(5)(6)でまた、有利(不利) 差異の問題があるのは多いのでは。(福岡)
- (2) b ① 借方を貸方と答える生徒が多い。(福井)
- ② 部門別計算の中身を問う良問である。(滋賀)

4 個別原価計算

- ① 個別原価計算でも、完成品原価の計上と二重になった出題でもあったので、配慮してほしいと思いました。（茨城）
- (5)① 差異の借方・貸方の区別がわからない。両方正解となるので、点差が大きく出た。（静岡）

第97回

全般

- ① 今回から1級の計算用紙が廃止され問題用紙も冊子になったことから、問題用紙と答案用紙が区別しやすくなったため、オレンジ色の厚紙もなくして良いと思う。（滋賀）
- ② 出題範囲や傾向が変わって初めての検定試験であったが、オーソドックスな問題が多く新検定へスムーズに移行できた。（滋賀）
- ③ 全体を通して、基本的な知識や技術が幅広く身につけているかを問う良問であった。（滋賀）
- ④（3級・2級・会計にご意見あり）その他は各級良問であったという意見が多かったです。
（大阪）
- ⑤ 良問である。（岡山）
- ⑥ 多くの学校より良問であったとの回答をいただきました。（茨城）
- ⑦ 良問でした。（岩手・愛媛）
- ⑧ 良問であった。（鳥取・山口）
- ⑨ 全体的に基本的な問題で良かったと思う。教科書内容にそった適切な問題でした。（福島）
- ⑩ 全体的に標準レベルの問題であったと思われる。（福岡）
- ⑪ 良問（長崎）
- ⑫ 問題をよく見て理解を問う良問でした。（兵庫）
- ⑬ 全体として、問題量が増えて「かなりボリュームがある」という印象を受けました。内容は適切だと思います。（兵庫）
- ⑭ 新検定の内容を反映した良問であった。問題集による指導ではない「教科書」を使用しての授業を大切にする問題であった。（京都）
- ⑮ 全体に良問でした。新検定形式に私たち教員が慣れる必要性を感じました。（長野）
- ⑯ 努力が報われる良い内容でしたが会計と比較すると難易度は高かったと思います。（埼玉）
- ⑰ 1(2)製造原価報告書のすべてを埋める形、前述の1(6)、3は素材を2回に分けて消費し、実際平均賃率を用いた賃金の消費高の計算、仕訳の問題は数が減った分、難易度が上がっている。例年どおりの問題もあるが、全体として急に難易度が上がった印象がある。（福島）
- ⑱ 全体的に難易度が上がっていると思う。（福島）
- ⑲ これまでの出題方式と変わり、問われる量と質が増えたように感じた。（島根）
- ⑳ 各問題を一つ一つ見た場合は、パターンでは解くことができない思考力を問う良問であったと思います。ただし、全体的な視点で捉えた場合は、計算量が多かったことに加え、これまでの出題とは異なる形式や思考力を問う問題が増えたと感じました。①全商協会から問題例第〇〇回が示されてはいましたが、第97回の問題の方が難易度が高かったです。②計算用紙がなかったため、総合問題（個別原価計算）等の仕訳を書くことができずに焦ってしまう生徒がいました。
（熊本）

- ②① 作業量・計算量が多く時間がかかった。（東京）
- ②② 出題の仕方が難しいと感じた。各回ごとの難易度が変わらないように、今後も調整をお願いします。（沖縄）
- ②③ （全体的）新検定基準になり出題傾向が変わるのは良いが、合格率が安定するようにして欲しい。受験するタイミングによって難易度が異ならないようにしてほしい。（宮崎）
- ②④ 仕訳問題が大問4に、計算問題が大問1に移動するなど出題傾向が変わった。特に大問1の出題が4ページを割くなど、情報量が多く、読解スピードの向上が必要だと感じた。観点別評価を意図して出題したのか、（6）月例会議の会話から読み解く力が今後重視されていくのか、出題方針を確認していきたい。（沖縄）
- ②⑤ 新検定になり、問題の構成が変わったのはサンプル問題等で確認できていたが、問題の傾向自体も変化が大きく生徒も対応できず合格率も例年より低かった。新検定については模擬問題集等で学習するのが難しいので、内容、傾向に関しては過去問題から離れた出題はやめてもらいたかった。（埼玉）
- ②⑥ プレ問題と[1]と[3]の配点が異なっていましたが、今後もこの配点でいくのでしょうか？配点の検討をお願いしたいと思います。具体的には、問題の作業量や累積採点の関係から[2]の20点は多く、[3]の24点は少ないと思います。また、[4]の仕訳5題だと教科書全体から満遍なく出題するのが難しいのではないかと思います。（今回は個別原価計算の仕損じ、作業くず、副産物の出題がない）（埼玉）

計算用紙に対するご意見

- ① 計算用紙の廃止は資源や経費の削減のため非常に良いことである。（滋賀）
- ② 余白が少ないと感じるところがあったため、生徒の解答する姿を十分想像しながら余白を考慮して作問していただけるとありがたい。（滋賀）
- ③ 問題用紙の余白は増えていたが、問題によっては、計算用紙があったらありがたい。（沖縄）
- ④ 事前に計算用紙がないことは知っていましたが、計算用紙があったほうが良いと感じました。十分なスペースがあると助かります。（茨城）
- ⑤ 計算用紙があったほうが良いのではないかと感じた。（問題用紙の空き箇所がない）（島根）
- ⑥ 会計同様、計算用紙を今まで通り入れてほしい。（栃木）
- ⑦ 計算用紙をつけて欲しい。（石川）
- ⑧ 計算用紙が今回から無くなって、こちらで用意することもやめてほしいと言われたのに、計算するが少なく生徒も困っていた。計算用紙をなくすなら、問題に余白を1ページつけていただくような工夫をお願いしたい。（福井）
- ⑨ 計算用紙について、事前のメールで問題冊子の余白を使用するよう指示がありましたが、余白があまりない印象でした。（長野）
- ⑩ 計算用紙が配布されないのであれば、計算できるスペースを問題用紙内に増やすべきである。（滋賀）
- ⑪ 計算用紙が必要である。（大阪）
- ⑫ [3]の仕訳、計算スペースが[2]の下にしかなく、スペースが足りない。[1]を4ページから3ページに抑え、会計と同様に[3]の問題と見開きで仕訳、計算のページを作っていただくと解答しやすいと思います。（埼玉）

- ⑬ 原価計算についても今回のように余白のスペースが確保できるようにしてほしい。特に、大問2の後に余・白のスペースが必要。（徳島）
- ⑭ 大問3（単純個別原価計算）を解くスペース（素材勘定、工場消耗品勘定、仕訳を書くスペース）が足らなかったのも、ぜひ、計算用紙の配布をお願いしたいです。（仕訳や勘定を書かなくても解くことができるとの意見もあるでしょうが、基礎基本を大切にする全商検定だからこそ、様々な指導方法があることをご理解ください）。（熊本）
- ⑮ 3の問題を解くにあたっては、仕訳をして勘定記入という指導をしており、それが簿記の基本だと思う。これまでどおり白紙1枚の配付、またはそれに相当するスペースを確保していただきたい。空いたスペースを利用するのは難しい。学校で白紙を用意しても構わないのではないかと。（福島）
- ⑯ 別紙の計算用紙が廃止され、会計については問題用紙中にスペースができたが、原価計算も同様になれば良いと思う。（福島）
- ⑰ 今回の検定より1級（会計・原価計算）の計算用紙が配布されなくなり、特に原価計算は問題用紙に全く計算のスペースがなく絶対に必要だと思います。（長崎）
- ⑱ 計算用紙がなくなり、生徒は問題用紙に書き込んでいたがスペースが少なく困っている様子であった。今回の問題量が今後も続くのであれば、計算用紙をできれば配布してもらいたい。（兵庫）
- ⑲ 計算用紙を用意して欲しかった。（複数の学校より）（静岡）

1 適語・計算

- ① 文章が読めない生徒には苦しい問題（福井）
- ② 本質が分かっていないと難しい。考えさせる良問であった。（静岡）
- (1)① ア、イの関連性から抱き合わせ配点にする必要はないのではないかと。配点の都合であれば問題の工夫が必要と考える。（宮崎）
- ② [ア]で「実際消費数量」を問うのであれば、「価格差異」ではなく「材料消費価格差異」としたほうが良かったのではないかと。また、関連して「数量差異」も「材料消費数量差異」に。（語群選択問題なので別解はないが、上位級には「材料受入価格差異」も存在する）（埼玉）
- (2)① B/S材料から工場消耗品の期末棚卸高を算出する良問であった。（滋賀）
- ② ⑥外注加工賃で当月未払高が出ているのに、上記の貸借対照表（一部）に記載されていないのは、なぜでしょうか。「一部」だから記載されていないのでしょうか。（茨城）
- ウ① ア、イが誤答となると、ほぼ誤答となる。採点箇所の工夫が必要ではないかと。（宮崎）
- (3)① 等価係数を5：4または1：0.8にして計算すれば完成品総合原価が積数で割り切れるが、35：28までしか小さくできないと完成品総合原価が積数で割り切れない。重量を小さくして正しい等価係数を求めることも大切だが、積数によって完成品総合原価を按分できるのかの方が大切なのではないかと思うので、もっと簡単に重量を等価係数に変えることのできる数値で出題して欲しい。（埼玉）
- (4)① 解答時間の割には配点が少なかったように思う。また、総合原価計算の問題多かった。（滋賀）
- ② 月末仕掛品の原価計算はできているのに、完成品単価までたどりつけない者が多かった。（静岡）
- (5)① 差異の計算方法や考え方を理解できていたとしても、仕掛品勘定への記帳方法と結びつけて出

- 題されているため、正答に至らなかった生徒が多い。分けて出題してほしい。（香川）
- ② パーシャルプランによる記帳を問う良問である。（福井）
- ③ パーシャルプランと標準原価計算を関連付けて考えさせる良い問題であった。（三重）
- (6)① 会話形式にする意図は何でしょうか。（茨城）
- ② 会話文の出題形式が難しく感じました。（大分）
- ③ 直接原価計算の問題は、オーソドックスな問題を出題してほしかった。（栃木）
- ④ 過去の日商2級の出題に類似している。このような内容も必要だと思うが、教科書にここまでの説明があまりされていない中での出題はどうなのか。（埼玉）
- ⑤ 直接原価計算が文章（会話）の問題で、問題を読み取る力が最近の生徒は苦手なようで、諦めてしまった生徒も多かったようです。（埼玉）
- ⑥ 直接原価計算の会話形式はやめてほしい。（福井）
- ⑦ 読解力を求めることは別にしてほしい。（福井）
- ⑧ これまでにない出題形式であったため、文章の読解を苦手とする生徒には戸惑いが見られた。
（三重）
- ⑨ 初めて会話形式が取り入れられた。登場人物が5名おり、設定は理解できるものの、その必要性は疑問。そして、CVP そのものの難易度も高かった。会話形式を初めて出題するのであれば、例年どおりの難易度、社長と経理系の会話程度で良かったのではないだろうか。（福島）
- ⑩ 文章問題になっていて、わかりにくく感じた。計算力を問うもので読解力とするなら（1）で出した方が良いと感じる。（静岡）
- ⑪ イ 直接原価計算が会話形式で書かれていることと、損益分岐点の差額を求めることが今までにないパターンで戸惑っていたように思う。（兵庫）
- ⑫ 「先月と比べて～」を、先月の販売数量2,300個と比較してしまう誤答が多かったです。良問ではありますが、「先月の損益分岐点における販売数量と比べて～」とするなど、もう少し配慮があっても良いのではと思いました。（茨城）
- ⑬ 経理部長の言葉「先月と比べて」は、「先月の損益分岐点における販売数量に比べてと表現したほうが、生徒にはわかりやすかったのではないかと感じましたが、良問でした。（佐賀）
- ⑭ 月例会議の会話文をもとにした出題だが、初めての形式と思われるため、資料の提示を分かり易くすべきかと思われる。先月の資料は、月間目標利益に関する計算資料のはず。実績と混同しないように会話文には実績とあるが、読み慣れていない生徒には資料自体の位置づけが何だか分からない可能性もある。せめて、販売計画（単価¥2,500 計画数量2,200個）を明示していれば問題はなかった。本校の生徒は問題なく解いたが、できなかった学校もあったと思われる。初見問題の場合には、資料の提示の仕方または配点に注意が必要と思われる。しかし、問題自体は良問で、考えさせる価値のある出題であった。この程度の問題は、今後も出題して頂きたい。（埼玉）
- ⑮ 会話形式の出題に戸惑いが多かったと感じた。旧教育課程での指導であったため、指導しきれないと感じた。（北海道）
- ⑯ ウ 文章を読解できるかどうかが解答に大きく響いた。出題の意図は理解でき、良問だと思うが、全体の難易度を踏まえて出題してほしい。（香川）
- ⑰ 会話形式の斬新な出題であったが、会話文の文脈が前後しており、内容の読み取りが難しく、増加額や削減額までの計算に時間を要する出題であった。（宮城）
- ⑱ とても良いアイデアだったと思った。（東京）

- ⑭ 問題内容はとてもよかった。ビジネスシーンの会話形式などビジネスの実態に即した出題であった。（島根）
- ⑮ 模擬試験にもない会話文から読み取る形式の問題だったため、生徒はかなり戸惑いがあった様ですが、「読み取れるか」も問える良い問題だったと思います。（千葉）
- ⑯ 直接原価計算の問題はパターン化していたため、会話文形式は工夫されていて良かった。ただし、生徒のできはいまひとつであった。（滋賀）
- ⑰ 新学習指導要領に沿った問題で3観点を踏まえた良問であった。（栃木）
- ⑱ 会話形式の問題は直接原価計算の本質を問う問題で非常に良問であった。（奈良）
- ⑲ 問題が会話式になっており、問題をきちんと読み解く力が必要になる良問である。（徳島）
- ⑳ 直接原価計算をただ計算させるだけではない問い方は良問であった。（長野）

2 総合原価計算

- ① 2と3の問題で5ページ下の余白を計算用紙として共有することになると思うが、余白が少ないと思う。ここに対する意見は、生徒、教員ともに非常に多かった。（滋賀）
- ② B組の完成品単価とA組仕掛品勘定の完成品原価は累積といえる。1つの作表問題で20点配点は厳しいのではないかと。今後[2]で単純総合原価計算を出題した時に5箇所の採点箇所をどのようにとるのか。（埼玉）

3 個別原価計算

- ① 隣のページに余白がなく取引の仕訳をするスペースがなかった。それなら計算用紙があった方がよい。（奈良）
- ② 大問3について計算用紙がないので仕訳のメモをするスペースがない。空白ページを設けるなどして、仕訳をメモするスペースを作ってほしい。（福岡）
- ③ 計算用紙が廃止となり、会計部門は問題を見やすくするためにページの空気があったが原価計算部門は計算過程のメモを取る場所がなかったためページを空けるか追加の計算用紙があると便利であると感じた。（静岡）
- ④ 計算用紙が廃止となり、会計部門は問題を見やすくするためにページの空気があったが原価計算部門は計算過程のメモをとる場所がなかったためページを空けるか追加の計算用紙があると便利であると感じた。（静岡）
- ⑤ ①賃金について予定配賦ではなく実際配賦になっていたこと、②素材について消費→購入→消費となっていたため計算が複雑になったことなどにより、難易度が高くなっていたと感じました。計算ができていない生徒が多かったです。（熊本）
- ⑥ 賃金の計算方法が実際平均賃率を使用する問題であり、誤答が多かった。（三重）
- ⑦ 賃金が実際平均賃率によって計算し、製造間接費を予定配賦している不統一に違和感を感じる。賃金を実際額で計算しているのであれば、製造原価は月末にならないと算出できないので、製造間接費を予定配賦する必要がないのではないかと。また、賃金を実際平均賃率で計算する出題では製品の月中完成の出題はできないので、出題に検討が必要ではないかと思います。（埼玉）
- ⑧ (3)・製品単価が採点箇所となっているが、直接労務費合計が誤答の場合、製品単価も誤答となり、6点のマイナスとなる。（宮崎）

- ⑨ (5) 製造間接費配賦差異の予算差異の問題が加えられていた。一連の問題内容ではなく、①に計算問題として出せば良いと感じた。(静岡)
- ⑩ 差異分析をからめた問題があったが、計算問題として①で出力する方が良いと思う。(福井)
- ⑪ 製造間接費差異の分析の資料に当月の実際発生額¥2,754,000 が記載されているのはどうなのか。(解答にあたっての配慮と思われるが、取引データの前に実際発生額が明記されているのは違和感がある) 実際発生額を示すのであらが、31日⑦の文章内に示せば違和感はないのではないかと。(埼玉)
- ⑫ 実際作業時間を問題内から探さなければならず、基準操業度で計算し、間違える者が多かった。今後も、このような形で出題されるかお聞きしたい。(静岡)
- ⑬ 製造指図書#3の取引はあったが、原価計算表はなかった。(東京)
- ⑭ 一連の中で考えさせる良問であった。(長野)

4 仕訳

- ① なぜ仕訳が最後の問題なのか、意図があるのであれば教えてください。(大分)
- ② 全体としてよく考えられた問題だと思います。しかし、問題数を6題から5題に減らした関係で教科書全体からの満遍なく出題が可能なのか心配である。(埼玉)
- ③ d. 第2工程に振り替えられた金額を工程別総合原価計算表から読み取らせたいという趣旨なのだろうが、わかりにくい。これまでどおりの表現でよいのではないかと、と思われる。(福島)
- ④ 工程別総合原価計算の半製品がある場合の記帳の問題の誤答率が高かった。(鳥取)

〔将来の運営〕 全国からのご意見

96 回

- ① 政府は、2026 年までの約束手形の利用廃止、小切手の全面的な電子化の方針を示していますが、検定についての対応方針を教えてください。(大分)
- ② 関係書類集の P 7 の本部校のアンケートの提出期間と、P 9 の試験場校のアンケートの提出期間については他の検定と同様にしていただきたい。まとめて報告する試験場校が多く、対応に苦慮している。(鹿児島)
- ③ ネット試験(CBT等)に今後変更することを検討されてはいかがでしょうか。(愛知)
- ④ 円記号を、ビジネス計算検定と同様にブロック体にしてほしい。(愛知)

97 回

- ① タイムテーブルに関して 2 級、3 級→60 分 会計、原価計算→90 分 午前中に実施できるスケジュールにできないだろうか。(福島)
- ② 3 級と原価計算を同時時間帯、会計と 2 級を同時時間帯で実施してほしい。(福島)
- ③ 年度の途中での計算用紙の配布をしないという指示は、混乱を招くと思います。(福島)
- ④ 問題用紙が冊子に変わり、バラバラになっても大丈夫なように、問題用紙 P2~5 に受験番号を記入させるところがあると良いと思いました。(茨城)
- ⑤ 計算用紙の変更は、事前に周知されていたが、年度途中での変更は避けていただきたいかった。計算用紙の復活を希望。(栃木)
- ⑥ いつも円滑な試験運営をしていただき、ありがとうございます。(東京)
- ⑦ 問題用紙の余白が少なく感じました。計算用紙を廃止しているとはいえ、計算や下書きのスペースをもう少し多めに確保してほしいです。(東京)
- ⑧ 計算用紙の配付が廃止になりましたが、実施要綱の電子版が修正されていないので、混乱しました。試験問題送付の段ボールに 1 枚お知らせが入っているとありがたかったです。(東京)
- ⑨ 問題用紙の中の 2 枚目の用紙が反対に折られており 1 ページの次に 4 ページがきていた。今後気を付けてほしい(福井)
- ⑩ 問題冊子の逆折りは、生徒が混乱しており、実施の上で問題があった。(長野)
- ⑪ 総合学科では申込者が 15 名に達しない場合や申込者が少ないことなどが来年度以降予測させます。学校や教員の努力では解決しない問題が今後考えられます。そこで、QRコードからの個人申し込みや試験会場を地域ごとに設定して受験者をまとめるなど全商協会の主導で検定試験の運営、実施をお願いできないでしょうか。受験希望者はどの学校に在籍していても、平等に受験機会が与えられ、またどの学校に勤務する教員も検定試験に関する負担と報酬が平等になるシステムへの改善を強く希望します。現状では今後、全

商協会主催の検定試験を断念せざるを得ない方向です。(愛知)

- ⑬ 全商2級以上のC B T化の実施について、今後の見通しがどうなっているのか。授業展開や検定運営に影響するため心配しています。(愛知)

「原価計算」の問題が少し多いと感じた。「会計」の問題のように書けるスペースが欲しい。もしくは計算用紙が欲しい。(愛知)

- ⑭ 3級のC B T化について、実施方法等をできるだけ早く教えていただけると助かります。緊急Webの閲覧をしようとしたところ、本校のコンピュータからアクセスができなかった。(エラーメッセージが表示された。)(愛知)

- ⑮ 途中退出をぜひ可能としていただきたい。(愛知)

- ⑯ C B T化については不要と考えます。日商簿記検定に倣う必要はないと思います。簿記会計の知識と技術を身に付けるモチベーションとして全商簿記検定があると考えます。C B T化にすることで、単に検定合格のテクニックを身に付けるだけになるのではと心配しています。(愛知)

- ⑰ 今回から1級の計算用紙が廃止され問題用紙も冊子になったことから、問題用紙と答案用紙が区別しやすくなったため、オレンジ色の厚紙もなくして良いと思う。(滋賀)

- ⑱ 関係書類ダウンロードの資料「令和5年度業務日程一覧表」が、「令和5年度検定試験関係書類集(表紙～37ページ)」のスケジュールページと全く同じものになっている。見開きで使用するページのためPDFで見るのも印刷するのも不便である。改善をお願いしたい。(京都)

- ⑲ 問題用紙が冊子型になり余白が増え計算等しやすくなったのは良い。(奈良)

- ⑳ 今回から計算用紙が無くなったが、事前連絡はあったのか。「今回から計算用紙はありません」と書かれた文書が1枚入っていてもよかったのでは。現場は非常に戸惑った。(奈良)

- ㉑ 97回から計算用紙が廃止され、混乱が生じた。年度の途中から変更になるのはいかなものかと思う。会計の方は、まだ仕訳等などを書けるスペースがあったが、原計は、スペースが少なくやりづらかった生徒も多々いた。計算用紙は必要だと思う。(香川)

第97回 簿記実務検定試験誤答調査一覧表

3 級		
第 9 7 回 (調査数 1,000人)		
問 題		誤答数
1 仕 訳	a. 備品の購入 (小切手振り出し)	44
	b. 従業員のための現金立て替え払い	101
	c. 現金元入れによる開業	207
	d. 売掛金の貸し倒れ (貸倒引当金残高あり)	317
2 伝 票	出金伝票 No. 58 定期預金…全商銀行…500,000	244
	振替伝票 1/26 … 広告料 190,000 / 当座預金 190,000	102
3 仕 訳 帳 ・ 元 帳 ・ 試 算 表	(1) 仕 訳 帳 4…(仕入)…11… 20,000/(買掛金)…6…20,000	24
	10…(現金)…30,000/(売掛金)…30,000	9
	11…(現金)…1…113,000/(売上)…10…113,000	48
	19…(保険料)…900/(当座預金)…900	27
	総 勘 定 元 帳 売 掛 金 (借方) 18 … 57,500	88
	買 掛 金 (借方) 1/30 … 24,100	32
	仕 入 (借方) 15 … 24,600	140
	水道光熱費 (借方) 1/12 … 7,800	21
	(2) 売 掛 金 元 帳 宮城商店 (借方) 26,000	53
	山形商店 (貸方) 43,000	76
	(3) 合 計 試 算 表 現 金 (貸方) 29,400	149
	当座預金 (借方) 107,800	112
	給 料 (借方) 30,000	43
	合計金額(借方・貸方) 652,300	343
4 適 語 ・ 計 算	(1) a 2 (Bookkeeping)	126
	b ア. 2 (財政状態)	385
	イ. 3 (貸借対照表)	194
	(2) a ¥ 485,000	63
	b ¥ 3,621,000	483
5 決 算	(1) 精算表 現 金 () … () … 195,000 … ()	72
	(2) 精算表 貸倒引当金 () … () … () … 7,000	142
	精算表 仕 入 3,590,000 … () … () … ()	106
	精算表 当期純利益 295,000 … () … () … 295,000	251
	(2) 備 品 勘 定 (貸方) 次期繰越 … 240,000	209
	受取手数料勘定 (借方) 12/31…損 益 … 46,000	197
70点以上の合格者数		874
60点～69点の不合格者数		66

2 級			
第 97 回 (調査数 1,000 人)			
問 題			誤答数
1 仕 訳	a. 電子記録債権の発生記録		203
	b. 支払手形の書き換え		338
	c. 仮受消費税		341
2 計 算 ・ 用 語 ・ 本 支 店	(1) ア. 減価償却 (2 期目) の残高	¥36,000,000	204
	イ. 建物勘定の次期繰越	¥39,600,000	746
	ウ. 建物減価償却累計額勘定の前期繰越	¥ 5,400,000	643
	エ. 建物減価償却累計額勘定の減価償却費	¥ 1,800,000	426
	(2) a.	4 (主要簿)	194
	b.	2 (Sales account)	179
	(3) ア. 本支店合併後の現金	¥ 561,000	309
	イ. 本支店合併後の当座預金	¥ 1,654,000	379
	ウ. 本支店合併後の買掛金	¥ 1,027,000	441
	エ. 本支店合併後の当期純利益	¥ 946,000	542
3 伝 票	(1) 仕訳集計表		
	ア. 現 金 (貸方)	¥ 946,800	160
	イ. 買 掛 金 (借方)	¥ 301,000	110
	ウ. 合 計 (貸方)	¥ 2,108,000	700
4 元 帳 ・ 補 助 簿	(2) 普通預金勘定の残高	¥ 3,560,000	325
	総勘定元帳		
	現 金 (借方)	12……200,000	71
	当 座 預 金 (借方)	17……604,000	42
	売 上 (貸方)	1/11……369,000	41
	現金出納帳	(貸方) 25…… 17,000	91
	仕入帳	純仕入高 430,000	358
	買掛金元帳	成田商店 (借方) 29……391,000	72
		館山商店 (残高) 23…… 80,000	51
5 決 算	商品有高帳	25 …… 100 820 82,000 50 840 42,000	241
	(1) 貸借対照表		
	当 座 預 金	2,460,000	139
	受 取 手 形		124
	貸 倒 引 当 金	1,188,000	
	有 価 証 券	2,625,000	153
	(前払保険料) ……………	126,000	191
	備 品		291
	減価償却累計額	324,000	
	(未 払 利 息) ……………	12,000	217
6 会 社 株 式	(当期純利益) ……………	702,000	524
	(2) 売上原価	¥21,956,000	181
	a. 株式の発行 (株式交付費)		320
	b. 当期純利益の計上		263
	c. 法人税 (中間申告)		269
70点以上の合格者数			548
60点～69点の不合格者数			123

1 級 会 計		
第 97 回 (調査数 1,000 人)		
問 題		誤答数
1 適 語 ・ 計 算	(1) a. ア. 7 (正規の簿記)	87
	イ. 1 (重要性)	385
	b. ウ. 4 (一時差異)	123
	c. エ. 5 (純資産の部)	303
	(2) a. ア. 3 (Expenses)	373
	b. イ. 2 (資産)	637
	ウ. 1 (費用配分)	335
2 計 算 ・ 連 結 ・ 分 析	(1) ア. 319,500 千円	165
	イ. 150 千円	178
	ウ. 600 千円	354
	エ. 17,750 千円	343
	(2) ¥ 230,000	489
	(3) ① ア. 1,700 千円	485
	イ. 101.0 %	496
	ウ. 6.5 %	566
	② エ. 30.0 %	287
	オ. 2	
	カ. 20.0 %	419
	キ. 1	
	③ 1	700
3 損 益 ・ 貸 借	(1) 貸借対照表 (有価証券) (2,200,000)	284
	(長期前払費用) (385,000)	506
	(未払費用) (9,000)	461
	(退職給付引当金) (4,900,000)	563
	繰越利益剰余金 (2,741,000)	716
	その他有価証券評価差額金 (150,000)	207
	(2) 損益計算書 (棚卸減耗損) (30,000)	185
	(減価償却費) (1,012,500)	278
	(ソフトウェア償却) (140,000)	268
4 仕 訳	a. 満期保有目的債券・購入 (端数利息)	392
	b. 収益的支出と資本的支出	252
	c. 保証債務の取崩	551
	d. 固定資産の除却	358
	e. 企業の取得	361
	f. 外貨建取引 (輸入)	168
	g. 新株予約権の発行	352
70点以上の合格者数		505
60点～69点の不合格者数		118

1 級 原価計算					
第 9 7 回（調査数 1,000 人）					
問 題				誤答数	
適語・計算	1	(1) ア. 3（実際消費数量） イ. 2（製造現場外）			550
		(2) ア. 材料費 ￥ 2,364,500			730
		イ. 労務費 ￥ 2,163,000			430
		ウ. 当期製品製造原価 ￥ 5,168,000			854
		(3) 2 級製品の製造原価 ￥ 1,840,000			428
		(4) 完成品単価 ￥ 2,128			576
		(5) a. 製品 ￥12,408,000			365
		b. 材料費 ￥ 3,924,000			490
		c. 作業時間差異 ￥ 75,000			427
		(6) ア. 営業利益 650,000 円			245
		イ. 増加する損益分岐点販売数量 150 個			592
		ウ. 固定費の削減額 100,000 円			447
総合原価計算	2	組別総合原価計算表	A組 組直接費 加工費 5,064,000	150	
			B組 組間接費 加工費 396,000	301	
			A組 月末仕掛品原価 素材費 943,500	284	
			B組 製品単価 ￥ 3,705	386	
			A組 仕掛品勘定の貸方 A組製品 10,056,000	449	
個別原価計算	3	(1) 1/17（借）仕掛品 1,588,000（貸）素材 1,588,000 （製造）			430
		(2) 仕掛品勘定の借方 製造間接費… 2,745,000			615
		製造間接費勘定の借方 1/31…工場消耗品… 276,000			381
		(3) 原価計算表（＃1）の直接労務費 3,198,000			277
		原価計算表（＃1）の製品単価 ￥ 150,300			485
		原価計算表（＃2）の直接材料費 1,890,000			430
		(4) 貸金未払高 932,000			744
		(5) 予算差異 11,000（貸方）			792
仕訳	4	a. 素材勘定の残高の修正（総平均法）			609
		b. 賃率差異勘定から売上原価勘定へ振り替え			542
		c. 補助部門費の製造部門への配賦			296
		d. 第1・第2工程完成品原価、第2工程への振り替え高の工程別総合原価計算			615
		e. 工場会計の独立 減価償却費の計上（本社の仕訳）			566
70点以上の合格者数				386	
60点～69点の不合格者数				125	

令和5年度 第96回・第97回簿記実務検定試験
第1級満点賞受賞者一覧

No	都道府県	学 校 名	表彰者数	
			96回	97回
1	栃木	栃木県立宇都宮商業高等学校		1
2	千葉	千葉県立千葉商業高等学校		2
3	福井	福井県立武生商工高等学校		1
4	静岡	静岡県立沼津商業高等学校		1
5	愛知	愛知県立愛知商業高等学校		1
6		愛知県立東海樟風高等学校		1
7		愛知県立碧南高等学校		1
8		愛知県立知立高等学校		1
9	三重	三重県立松阪商業高等学校		2
合 計			0	11

令和5年度 第96回 簿記実務検定試験申込者数・受験者数・合格者数集計表

令和5年6月25日(日)実施

No.	都道府県	試験場 校数	分会場 校数	種別	1 級				2 級		3 級		合 計		1 級 合 格			
					会 計		原 計		高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	同一回	4 回以内	高 校	一 般
					高 校	一 般	高 校	一 般										
1	北海道	29	27	申込	532	5	657	1	353	2	194	9	1,736	17	16	0	91	1
				受験	475	2	589	0	323	1	161	6	1,548	9	16	92		
				合格	137	1	217	0	67	0	68	3	489	4				
2	青森県	10	2	申込	212	0	224	0	207	0	111	3	754	3	5	0	53	0
				受験	198	0	203	0	181	0	105	3	687	3	5	53		
				合格	54	0	39	0	37	0	30	3	160	3				
3	岩手県	13	5	申込	251	0	197	0	428	0	320	0	1,196	0	4	0	34	0
				受験	232	0	186	0	410	0	309	0	1,137	0	4	34		
				合格	76	0	60	0	125	0	239	0	500	0				
4	宮城県	12	1	申込	180	0	87	3	134	10	117	14	518	27	9	0	56	0
				受験	169	0	79	3	121	8	106	12	475	23	9	56		
				合格	76	0	45	2	31	0	53	3	205	5				
5	秋田県	11	7	申込	87	0	216	0	109	0	100	0	512	0	5	0	34	0
				受験	80	0	201	0	106	0	96	0	483	0	5	34		
				合格	42	0	84	0	60	0	68	0	254	0				
6	山形県	8	4	申込	173	0	118	0	173	0	29	0	493	0	7	0	51	0
				受験	159	0	108	0	166	0	28	0	461	0	7	51		
				合格	60	0	30	0	46	0	16	0	152	0				
7	福島県	15	6	申込	211	0	449	2	252	2	96	10	1,008	14	19	0	99	0
				受験	189	0	429	2	240	2	53	10	911	14	19	99		
				合格	95	0	285	1	89	1	21	8	490	10				
8	茨城県	18	1	申込	490	0	623	0	306	0	93	1	1,512	1	19	0	69	0
				受験	455	0	594	0	284	0	77	1	1,410	1	19	69		
				合格	129	0	293	0	117	0	32	0	571	0				
9	栃木県	17	2	申込	381	0	943	0	320	0	238	0	1,882	0	8	0	102	0
				受験	347	0	907	0	298	0	217	0	1,769	0	8	102		
				合格	124	0	461	0	81	0	145	0	811	0				
10	群馬県	11	3	申込	1,233	0	719	0	87	0	369	1	2,408	1	29	0	85	0
				受験	1,125	0	619	0	84	0	354	1	2,182	1	29	85		
				合格	397	0	161	0	15	0	182	1	755	1				
11	埼玉県	24	1	申込	871	1	443	1	790	3	110	4	2,214	9	16	0	216	0
				受験	827	1	411	1	725	3	103	4	2,066	9	16	216		
				合格	421	0	153	1	295	2	56	2	925	5				
12	千葉県	16	1	申込	150	4	257	3	233	8	121	4	761	19	10	0	76	1
				受験	132	1	241	1	216	7	104	4	693	13	10	77		
				合格	50	1	147	0	100	3	54	1	351	5				
13	山梨県	3	1	申込	76	0	75	0	147	0	31	0	329	0	6	0	11	0
				受験	64	0	64	0	137	0	28	0	293	0	6	11		
				合格	17	0	14	0	39	0	17	0	87	0				
14	東京都	16	2	申込	250	2	242	2	430	1	418	1	1,340	6	11	0	52	0
				受験	216	0	197	0	400	1	385	1	1,198	2	11	52		
				合格	78	0	73	0	131	0	232	0	514	0				
15	神奈川県	9	0	申込	203	0	160	1	166	2	34	1	563	4	15	0	46	0
				受験	173	0	143	0	154	2	24	1	494	3	15	46		
				合格	57	0	54	0	69	1	11	0	191	1				
16	新潟県	8	4	申込	225	0	485	0	60	7	11	1	781	8	6	0	42	0
				受験	194	0	460	0	60	6	10	0	724	6	6	42		
				合格	64	0	245	0	27	3	8	0	344	3				
17	富山県	9	2	申込	276	0	376	0	49	0	61	0	762	0	13	0	55	0
				受験	245	0	344	0	36	0	54	0	679	0	13	55		
				合格	62	0	122	0	9	0	22	0	215	0				

No.	都道府県	試験場 校数	分会場 校数	種別	1 級				2 級		3 級		合 計		1 級 合 格			
					会 計		原 計								同一回		4 回以内	
					高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般
18	石川県	9	4	申込	92	0	609	0	110	0	62	0	873	0	5	0	38	0
				受験	85	0	588	0	100	0	52	0	825	0	5		38	
				合格	32	0	248	0	12	0	19	0	311	0				
19	福井県	7	1	申込	249	0	163	0	207	1	39	1	658	2	8	0	73	0
				受験	242	0	159	0	144	1	35	1	580	2	8		73	
				合格	86	0	45	0	37	1	18	1	186	2				
20	長野県	11	2	申込	171	0	491	0	53	0	43	0	758	0	5	0	54	0
				受験	152	0	468	0	42	0	37	0	699	0	5		54	
				合格	55	0	200	0	19	0	12	0	286	0				
21	静岡県	23	0	申込	490	0	567	1	417	0	222	0	1,696	1	34	0	149	0
				受験	452	0	530	1	379	0	204	0	1,565	1	34		149	
				合格	172	0	258	1	122	0	149	0	701	1				
22	愛知県	36	3	申込	585	7	376	7	641	13	474	2	2,076	29	66	0	193	3
				受験	529	6	331	6	589	12	383	2	1,832	26	66		196	
				合格	299	3	142	1	248	11	154	1	843	16				
23	岐阜県	15	6	申込	464	1	1,053	1	134	3	35	7	1,686	12	44	0	177	0
				受験	437	1	1,008	1	129	3	31	3	1,605	8	44		177	
				合格	203	0	632	0	41	3	16	2	892	5				
24	三重県	11	4	申込	154	0	137	0	296	5	138	0	725	5	9	0	67	0
				受験	144	0	127	0	284	5	119	0	674	5	9		67	
				合格	85	0	71	0	202	1	60	0	418	1				
25	滋賀県	7	0	申込	133	0	148	0	361	0	143	0	785	0	11	0	37	0
				受験	106	0	122	0	345	0	138	0	711	0	11		37	
				合格	43	0	41	0	135	0	96	0	315	0				
26	京都府	5	2	申込	33	0	75	0	130	3	25	12	263	15	1	0	9	0
				受験	28	0	74	0	125	3	23	11	250	14	1		9	
				合格	7	0	43	0	33	2	10	8	93	10				
27	大阪府	14	0	申込	241	1	538	1	550	1	184	1	1,513	4	17	0	52	0
				受験	212	0	475	0	494	1	138	1	1,319	2	17		52	
				合格	79	0	162	0	133	0	37	0	411	0				
28	兵庫県	25	4	申込	942	9	1,155	9	367	2	672	1	3,136	21	40	0	189	0
				受験	842	7	1,064	2	322	2	605	1	2,833	12	40		189	
				合格	353	2	462	0	112	0	370	1	1,297	3				
29	奈良県	4	2	申込	202	1	115	0	25	0	10	1	352	2	7	0	67	1
				受験	187	1	96	0	24	0	10	1	317	2	7		68	
				合格	83	1	24	0	11	0	2	0	120	1				
30	和歌山県	7	1	申込	57	0	49	0	268	5	18	0	392	5	3	0	12	0
				受験	44	0	36	0	239	5	16	0	335	5	3		12	
				合格	14	0	9	0	131	1	10	0	164	1				
31	鳥取県	3	1	申込	109	0	96	0	227	0	16	0	448	0	5	0	28	0
				受験	103	0	90	0	214	0	15	0	422	0	5		28	
				合格	31	0	21	0	122	0	11	0	185	0				
32	島根県	8	3	申込	146	0	96	0	266	0	74	13	582	13	6	0	19	0
				受験	131	0	85	0	251	0	62	13	529	13	6		19	
				合格	58	0	23	0	80	0	17	13	178	13				
33	岡山県	16	1	申込	284	9	1,227	3	89	14	199	6	1,799	32	14	0	82	4
				受験	253	9	1,132	3	63	13	128	5	1,576	30	14		86	
				合格	77	5	588	0	8	7	60	1	733	13				
34	広島県	13	0	申込	221	0	291	0	244	0	90	0	846	0	9	0	51	0
				受験	185	0	257	0	201	0	61	0	704	0	9		51	
				合格	47	0	73	0	46	0	19	0	185	0				
35	山口県	15	1	申込	224	0	189	1	327	1	112	3	852	5	10	0	42	0
				受験	202	0	161	0	322	1	105	2	790	3	10		42	
				合格	75	0	55	0	140	0	48	2	318	2				
36	香川県	10	4	申込	278	0	559	0	262	0	92	0	1,191	0	37	0	156	0
				受験	255	0	544	0	234	0	78	0	1,111	0	37		156	
				合格	77	0	354	0	106	0	30	0	567	0				

No.	都道府県	試験場 校数	分会場 校数	種別	1 級				2 級		3 級		合 計		1 級 合 格							
					会 計		原 計								同一回		4回以内					
					高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高校	一般	高校	一般				
37	徳島県	6	4	申込	91	0	86	0	216	0	46	0	439	0	5	0	25	0				
				受験	82	0	80	0	198	0	43	0	403	0	5		25					
				合格	39	0	19	0	91	0	23	0	172	0								
38	愛媛県	12	13	申込	368	0	743	0	371	1	190	0	1,672	1	23	0	184	9				
				受験	347	0	706	0	355	1	162	0	1,570	1	23		193					
				合格	160	0	345	0	153	0	98	0	756	0								
39	高知県	3	9	申込	147	0	56	0	36	0	46	0	285	0	1	0	14	0				
				受験	143	0	52	0	29	0	38	0	262	0	1		14					
				合格	85	0	34	0	9	0	17	0	145	0								
40	福岡県	27	2	申込	443	4	1,304	4	332	7	506	6	2,585	21	20	0	149	2				
				受験	384	4	1,189	4	262	6	391	3	2,226	17	20		151					
				合格	168	2	536	2	47	3	173	1	924	8								
41	佐賀県	8	4	申込	172	2	213	1	104	5	50	0	539	8	48	0	19	1				
				受験	157	2	192	0	103	5	41	0	493	7	48		20					
				合格	83	1	127	0	28	3	14	0	252	4								
42	長崎県	19	7	申込	364	0	455	0	445	0	164	0	1,428	0	9	1	71	0				
				受験	338	0	428	0	421	0	154	0	1,341	0	10		71					
				合格	141	0	191	0	158	0	70	0	560	0								
43	熊本県	20	4	申込	264	0	489	0	313	0	250	0	1,316	0	9	0	69	0				
				受験	219	0	450	0	275	0	231	0	1,175	0	9		69					
				合格	71	0	254	0	75	0	107	0	507	0								
44	大分県	13	5	申込	273	0	152	0	309	0	85	0	819	0	3	0	47	0				
				受験	265	0	143	0	289	0	77	0	774	0	3		47					
				合格	148	0	67	0	129	0	54	0	398	0								
45	宮崎県	16	0	申込	256	1	575	0	319	0	268	5	1,418	6	16	0	70	0				
				受験	244	1	549	0	285	0	227	5	1,305	6	16		70					
				合格	63	0	194	0	65	0	128	5	450	5								
46	鹿児島県	28	10	申込	598	0	448	0	826	0	503	13	2,375	13	22	0	141	0				
				受験	548	0	412	0	725	0	423	13	2,108	13	22		141					
				合格	264	0	126	0	187	0	191	11	768	11								
47	沖縄県	8	2	申込	105	0	81	0	385	0	232	0	803	0	4	0	13	0				
				受験	87	0	62	0	299	0	179	0	627	0	4		13					
合計		628	168	合格	22	0	16	0	98	0	98	0	234	0								
合計				申込	14,004		18,848		12,970		7,561		53,383		689	1	3,469	22				
					13,957	47	18,807	41	12,874	96	7,441	120	53,079	304								
				受験	12,718		17,409		11,771		6,524		48,422		690		3,491					
					12,683	35	17,385	24	11,683	88	6,420	104	48,171	251								
				合格	5,075		7,851		4,158		3,432		20,516									
					5,059	16	7,843	8	4,116	42	3,365	67	20,383	133								
受験率				受／申	90.8%		92.4%		90.8%		86.3%		90.7%									
					90.9%		74.5%	92.4%	58.5%	90.7%	91.7%	86.3%	86.7%	90.8%					82.6%			
合格率				合／受	39.9%		45.1%		35.3%		52.6%		42.4%									
					39.9%		45.7%	45.1%	33.3%	35.2%	47.7%	52.4%	64.4%	42.3%					53.0%			
第94回	申込者数				17,105		20,179		13,720		10,658		61,662									
	合格率			合／受	35.0%		40.2%		38.8%		50.4%		40.2%									
					35.0%	46.7%	40.1%	53.3%	38.8%	62.5%	50.4%	56.5%	40.1%	56.5%								

令和5年度 第97回 簿記実務検定試験申込者数・受験者数・合格者数集計表

令和6年1月28日(日)実施

No.	都道府県	試験場 校数	分会場 校数	種別	1 級				2 級		3 級		合 計		1 級 合 格			
					会 計		原 計								同一回		4 回以内	
					高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高校	一般	高校	一般
1	北海道	34	41	申込	926	1	773	0	1,459	6	1,176	2	4,334	9	131	0	210	0
				受験	866	0	714	0	1,352	5	1,085	2	4,017	7	131		210	
				合格	445	0	270	0	707	2	785	0	2,207	2				
2	青森県	11	6	申込	270	0	350	0	390	0	342	0	1,352	0	41	0	31	0
				受験	257	0	333	0	375	0	308	0	1,273	0	41		31	
				合格	87	0	91	0	215	0	177	0	570	0				
3	岩手県	15	6	申込	517	0	545	0	668	0	246	0	1,976	0	28	0	113	0
				受験	484	0	504	0	626	0	240	0	1,854	0	28		113	
				合格	172	0	159	0	303	0	177	0	811	0				
4	宮城県	18	2	申込	434	1	401	0	777	0	410	8	2,022	9	111	0	39	0
				受験	374	1	345	0	706	0	378	8	1,803	9	111		39	
				合格	212	0	158	0	418	0	277	5	1,065	5				
5	秋田県	18	6	申込	209	0	172	0	299	0	382	0	1,062	0	18	0	57	0
				受験	199	0	166	0	278	0	363	0	1,006	0	18		57	
				合格	89	0	40	0	135	0	279	0	543	0				
6	山形県	11	6	申込	428	1	468	1	515	0	424	0	1,835	2	142	0	21	0
				受験	419	1	449	1	492	0	396	0	1,756	2	142		21	
				合格	223	0	189	1	352	0	289	0	1,053	1				
7	福島県	23	3	申込	527	0	493	0	958	10	1,021	9	2,999	19	35	0	194	0
				受験	498	0	455	0	910	7	982	6	2,845	13	35		194	
				合格	287	0	133	0	528	4	782	2	1,730	6				
8	茨城県	19	3	申込	1,043	0	870	0	911	0	505	8	3,329	8	67	0	273	0
				受験	961	0	769	0	874	0	432	4	3,036	4	67		273	
				合格	415	0	227	0	487	0	334	2	1,463	2				
9	栃木県	19	3	申込	840	1	801	1	958	0	751	1	3,350	3	65	0	384	0
				受験	770	1	721	1	893	0	669	1	3,053	3	65		384	
				合格	451	1	195	0	437	0	452	1	1,535	2				
10	群馬県	15	2	申込	684	0	1,010	0	201	0	469	0	2,364	0	55	0	357	4
				受験	632	0	958	0	184	0	421	0	2,195	0	55		361	
				合格	181	0	494	0	75	0	323	0	1,073	0				
11	埼玉県	34	0	申込	711	2	1,372	2	1,758	1	1,385	10	5,226	15	106	0	255	1
				受験	625	2	1,283	1	1,637	0	1,279	9	4,824	12	106		256	
				合格	296	1	556	1	659	0	1,050	7	2,561	9				
12	千葉県	21	5	申込	783	3	858	3	960	0	1,246	5	3,847	11	149	0	77	0
				受験	710	3	762	3	880	0	1,103	5	3,455	11	149		77	
				合格	329	3	226	2	483	0	855	5	1,893	10				
13	山梨県	8	1	申込	228	0	353	0	412	0	95	0	1,088	0	32	0	7	0
				受験	213	0	338	0	386	0	81	0	1,018	0	32		7	
				合格	94	0	67	0	188	0	50	0	399	0				
14	東京都	21	1	申込	547	5	605	4	1,028	3	1,764	13	3,944	25	46	0	49	0
				受験	479	3	507	2	934	2	1,575	11	3,495	18	46		49	
				合格	139	2	80	1	338	1	1,198	8	1,755	12				
15	神奈川県	14	0	申込	412	1	525	1	357	1	466	5	1,760	8	77	1	46	0
				受験	355	1	463	1	331	0	420	5	1,569	7	78		46	
				合格	157	1	155	1	193	0	297	5	802	7				
16	新潟県	20	4	申込	852	0	732	0	986	0	336	4	2,906	4	129	0	198	0
				受験	795	0	665	0	917	0	315	4	2,692	4	129		198	
				合格	396	0	209	0	691	0	202	3	1,498	3				
17	富山県	9	5	申込	662	0	526	0	641	4	100	8	1,929	12	95	0	63	0
				受験	604	0	497	0	628	3	86	8	1,815	11	95		63	
				合格	228	0	142	0	440	3	44	6	854	9				

No.	都道府県	試験場 校数	分会場 校数	種別	1 級				2 級		3 級		合 計		1 級 合 格			
					会 計		原 計								同一回		4 回以内	
					高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般
18	石川県	11	8	申込	460	0	234	0	547	0	206	0	1,447	0	5	0	186	0
				受験	393	0	144	0	453	0	135	0	1,125	0	5		186	
				合格	227	0	30	0	311	0	98	0	666	0				
19	福井県	10	1	申込	482	0	476	0	621	0	444	0	2,023	0	163	0	19	0
				受験	459	0	453	0	608	0	416	0	1,936	0	163		19	
				合格	245	0	198	0	433	0	289	0	1,165	0				
20	長野県	16	5	申込	496	0	546	0	406	0	463	0	1,911	0	44	0	132	0
				受験	468	0	475	0	395	0	436	0	1,774	0	44		132	
				合格	216	0	115	0	271	0	323	0	925	0				
21	静岡県	31	1	申込	1,074	0	1,404	0	2,084	0	1,041	1	5,603	1	244	0	159	0
				受験	1,021	0	1,309	0	1,947	0	960	0	5,237	0	244		159	
				合格	498	0	462	0	1,114	0	782	0	2,856	0				
22	愛知県	44	3	申込	1,474	0	1,549	0	2,323	1	2,127	2	7,473	3	414	0	98	0
				受験	1,364	0	1,448	0	2,086	1	1,918	2	6,816	3	414		98	
				合格	683	0	745	0	1,113	1	1,368	1	3,909	2				
23	岐阜県	20	13	申込	1,396	2	791	3	909	4	487	28	3,583	37	175	0	469	0
				受験	1,290	2	724	2	850	3	445	23	3,309	30	175		469	
				合格	744	0	291	0	493	1	343	18	1,871	19				
24	三重県	13	9	申込	425	0	492	0	482	1	770	4	2,169	5	177	0	67	0
				受験	402	0	462	0	463	1	718	4	2,045	5	177		67	
				合格	276	0	276	0	336	1	673	3	1,561	4				
25	滋賀県	7	1	申込	406	0	486	0	457	0	446	0	1,795	0	137	0	10	0
				受験	392	0	463	0	433	0	431	0	1,719	0	137		10	
				合格	194	0	169	0	217	0	388	0	968	0				
26	京都府	6	3	申込	142	0	117	0	207	2	377	7	843	9	13	0	30	0
				受験	127	0	104	0	185	2	321	7	737	9	13		30	
				合格	49	0	21	0	84	2	232	7	386	9				
27	大阪府	15	0	申込	625	0	545	0	1,263	1	1,426	18	3,859	19	49	0	112	0
				受験	536	0	429	0	1,066	0	1,198	14	3,229	14	49		112	
				合格	231	0	94	0	390	0	692	11	1,407	11				
28	兵庫県	29	3	申込	1,040	0	1,239	5	769	6	1,117	10	4,165	21	59	0	384	0
				受験	928	0	1,118	5	661	6	987	10	3,694	21	59		384	
				合格	416	0	422	0	231	2	766	9	1,835	11				
29	奈良県	4	1	申込	473	0	488	0	211	0	194	0	1,366	0	108	0	8	0
				受験	433	0	471	0	183	0	188	0	1,275	0	108		8	
				合格	166	0	163	0	126	0	163	0	618	0				
30	和歌山県	10	1	申込	186	0	227	0	228	0	781	4	1,422	4	75	0	1	0
				受験	183	0	220	0	210	0	705	4	1,318	4	75		1	
				合格	102	0	90	0	84	0	579	4	855	4				
31	鳥取県	5	2	申込	288	0	234	0	338	0	107	7	967	7	44	0	5	0
				受験	257	0	223	0	323	0	93	7	896	7	44		5	
				合格	83	0	62	0	172	0	65	5	382	5				
32	島根県	10	6	申込	414	0	446	1	724	0	339	9	1,923	10	67	0	36	0
				受験	388	0	426	1	682	0	313	9	1,809	10	67		36	
				合格	120	0	129	0	364	0	200	7	813	7				
33	岡山県	21	3	申込	1,428	4	661	2	1,385	4	327	11	3,801	21	80	0	433	1
				受験	1,341	4	589	2	1,278	3	205	11	3,413	20	80		434	
				合格	665	0	112	1	787	1	79	7	1,643	9				
34	広島県	14	1	申込	493	0	507	0	782	0	590	0	2,372	0	43	0	23	0
				受験	440	0	443	0	673	0	544	0	2,100	0	43		23	
				合格	110	0	109	0	211	0	333	0	763	0				
35	山口県	18	2	申込	695	1	669	1	645	1	452	0	2,461	3	183	0	44	0
				受験	670	1	651	1	619	1	421	0	2,361	3	183		44	
				合格	330	0	267	0	357	1	314	0	1,268	1				
36	香川県	11	4	申込	380	0	220	0	425	0	362	0	1,387	0	1	0	147	0
				受験	364	0	175	0	392	0	329	0	1,260	0	1		147	
				合格	257	0	37	0	258	0	249	0	801	0				

No.	都道府県	試験場 校数	分会場 校数	種別	1 級				2 級		3 級		合 計		1 級 合 格			
					会 計		原 計								同一回		4 回以内	
					高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高校	一般	高校	一般
37	徳島県	9	2	申込	161	0	219	0	254	0	545	0	1,179	0	22	0	12	0
				受験	147	0	202	0	233	0	506	0	1,088	0	22	12		
				合格	57	0	42	0	69	0	385	0	553	0				
38	愛媛県	22	13	申込	643	0	359	0	712	0	871	4	2,585	4	12	0	194	0
				受験	604	0	330	0	663	0	785	4	2,382	4	12	194		
				合格	346	0	108	0	276	0	615	2	1,345	2				
39	高知県	5	13	申込	65	0	135	0	103	0	307	0	610	0	2	0	90	0
				受験	56	0	129	0	78	0	273	0	536	0	2	90		
				合格	29	0	79	0	25	0	189	0	322	0				
40	福岡県	36	0	申込	906	0	812	0	1,301	0	1,372	2	4,391	2	34	0	264	0
				受験	823	0	709	0	1,155	0	1,119	2	3,806	2	34	264		
				合格	359	0	141	0	444	0	703	2	1,647	2				
41	佐賀県	11	3	申込	386	0	531	0	775	0	382	0	2,074	0	71	0	82	0
				受験	347	0	489	0	733	0	362	0	1,931	0	71	82		
				合格	174	0	156	0	491	0	319	0	1,140	0				
42	長崎県	22	3	申込	470	0	375	0	978	0	485	1	2,308	1	12	0	185	0
				受験	432	0	353	0	900	0	439	1	2,124	1	12	185		
				合格	181	0	162	0	443	0	305	1	1,091	1				
43	熊本県	22	4	申込	595	0	308	0	720	0	737	1	2,360	1	20	0	170	0
				受験	520	0	255	0	610	0	679	1	2,064	1	20	170		
				合格	253	0	54	0	316	0	507	1	1,130	1				
44	大分県	20	2	申込	426	0	500	0	688	0	548	0	2,162	0	44	0	139	0
				受験	386	0	445	0	630	0	496	0	1,957	0	44	139		
				合格	172	0	197	0	385	0	356	0	1,110	0				
45	宮崎県	15	0	申込	411	0	377	1	521	7	878	20	2,187	28	12	0	90	0
				受験	387	0	326	1	470	6	791	17	1,974	24	12	90		
				合格	152	0	50	1	202	6	532	12	936	19				
46	鹿児島県	31	7	申込	624	2	1,172	2	912	15	1,627	0	4,335	19	51	0	129	0
				受験	552	1	1,055	1	806	14	1,433	0	3,846	16	51	129		
				合格	173	0	220	0	238	9	902	0	1,533	9				
47	沖縄県	12	0	申込	105	0	145	0	450	0	857	11	1,557	11	5	0	9	0
				受験	80	0	112	0	388	0	704	11	1,284	11	5	9		
合計		810	208	合格	24	0	35	0	125	0	354	8	538	8				
合計				申込	27,266		27,145		35,565		31,996		121,972		3,693	1	6,101	6
					27,242	24	27,118	27	35,498	67	31,783	213	121,641	331				
				受験	25,051		24,683		32,630		28,673		111,037		3,694	6,107		
					25,031	20	24,661	22	32,576	54	28,483	190	110,751	286				
				合格	11,741		8,435		17,049		20,816		58,041					
11,733	8	8,427	8		17,015	34	20,674	142	57,849	192								
受験率				受／申	91.9%		90.9%		91.7%		89.6%		91.0%					
					91.9%	83.3%	90.9%	81.5%	91.8%	80.6%	89.6%	89.2%	91.0%	86.4%				
合格率				合／受	46.9%		34.2%		52.2%		72.6%		52.3%					
					46.9%	40.0%	34.2%	36.4%	52.2%	63.0%	72.6%	74.7%	52.2%	67.1%				
第95回	申込者数				30,563		28,541		36,418		33,920		129,442					
	合格率			合／受	38.5%		42.6%		57.6%		76.7%		54.7%					
					38.5%	36.7%	42.6%	50.0%	57.6%	61.0%	76.8%	64.0%	54.7%	58.0%				

令和6年度第98回・99回簿記実務検定試験出題範囲

この検定試験は、文部科学省高等学校学習指導要領に定める内容によっておこなう。

I 各級の出題範囲

各級の出題範囲は次のとおりである。ただし、2級の範囲は3級の範囲を含み、1級の範囲は2・3級の範囲を含む。

内 容	3 級	2 級	(新) 1 級 (会計)
(1) 簿記の原理	ア. 簿記の概要 資産・負債・純資産・収益・費用 貸借対照表・損益計算書 イ. 簿記の一巡の手続 取引・仕訳・勘定 仕訳帳・総勘定元帳 試算表 ウ. 会計帳簿 主要簿と補助簿 現金出納帳・小口現金出納帳・当 座預金出納帳・仕入帳・売上帳・ 商品有高帳(先入先出法・移動平 均法)・売掛金元帳・買掛金元帳	受取手形記入帳 支払手形記入帳	(総平均法)
(2) 取引の記帳	ア. 現金預金 イ. 商品売買 ウ. 掛け取引 カ. その他の債権・債務 キ. 固定資産 取得 ク. 販売費と一般管理費 ケ. 個人企業の純資産	現金過不足の処理 当座借越契約 エ. 手形 手形の受取・振出・決済・ 裏書・割引・書換・不渡 手形による貸付及び借入 営業外取引による手形処理 オ. 有価証券 売買を目的とした有価証券 クレジット取引 電子記録債権・債務 売却 追加元入れ・引き出し コ. 税金 所得税・住民税・固定資産税・ 事業税・印紙税・消費税・ 法人税 サ. 株式会社会計 設立・新株の発行・当期純損益の 計上・剰余金の配当と処分	銀行勘定調整表の作成 予約販売 サービス業会計 工事契約 契約資産・契約負債 満期保有目的の債券・他企業支配 目的株式・その他有価証券・有価 証券における利息 除却・建設仮勘定・無形固定資産 リース会計(借り手の処理) 課税所得の計算 税効果会計に関する会計処理 合併・資本金の増加・資本金の減 少・任意積立金の取り崩し・ 自己株式の取得・処分・消却 新株予約権の発行と権利行使 シ. 外貨建換算会計
(3) 決算	ア. 決算整理 商品に関する勘定の整理 貸倒れの見積もり 固定資産の減価償却(定額法) (直接法)	(定率法) (間接法) 有価証券の評価 収益・費用の繰り延べと見越し 消耗品の処理	商品評価損・棚卸減耗損 (生産高比例法) 税効果会計を含む処理 退職給付引当金 リース取引における利息の計算 外貨建金銭債権の評価

内 容	3 級	2 級	(新) 1 級 (会計)
	イ. 精算表 ウ. 財務諸表 損益計算書 (勘定式) 貸借対照表 (勘定式)		(報告式) (報告式) 株主資本等変動計算書
(4) 本支店会計		ア. 本店・支店間取引 支店相互間の取引 イ. 財務諸表の合併	
(5) 記帳の効率化	ア. 伝票の利用 入金伝票・出金伝票・振替伝票 の起票 イ. 会計ソフトウェアの活用	伝票の集計と転記	
(6) 財務会計の概要			ア. 企業会計と財務会計の目的 イ. 会計法規と会計基準 ウ. 財務諸表の種類
(7) 資産, 負債, 純 資産			ア. 資産, 負債の分類, 評価基準 イ. 資産, 負債の評価法
(8) 収益, 費用			ア. 損益計算の基準 イ. 営業損益 ウ. 営業外損益 エ. 特別損益
(9) 財務諸表分析の 基礎			ア. 財務諸表の意義・方法 イ. 収益性, 成長性, 安全性の分析 ウ. 連結財務諸表の目的, 種類, 有用性

内 容	(新) 1 級 (原価計算)
(1) 原価と原価計算	ア. 原価の概念と原価計算 イ. 製造業における簿記の特色と仕組み
(2) 費目別計算	ア. 材料費の計算と記帳 イ. 労務費の計算と記帳 ウ. 経費の計算と記帳
(3) 部門別計算と 製品別計算	ア. 個別原価計算と製造間接費の計算 (製造間接費差異の原因別分析 (公式法変動予算) を含む) イ. 部門別個別原価計算 (補助部門費の配賦は, 直接配賦法・相互配賦法による) ウ. 総合原価計算 (月末仕掛品原価の計算は, 平均法・先入先出法による) (仕損と減損の処理を含む)
(4) 内部会計	ア. 製品の完成と販売 イ. 工場会計の独立 ウ. 製造業の決算
(5) 標準原価計算	ア. 標準原価計算の目的と手続き (シングルプラン及びパーシャルプランによる記帳を含む) イ. 原価差異の原因別分析 ウ. 損益計算書の作成
(6) 直接原価計算	ア. 直接原価計算の目的 イ. 損益計算書の作成 ウ. 短期利益計画

勘定科目のおもなものを級別に示すと、次のとおりである。

3 級

37

1 級 (原価計算)

[illegible]